

沖縄県立芸術大学

Okinawa Prefectural University of Arts

沖縄県立芸術大学
大学案内 2021

Okinawa Prefectural University of Arts

*Okinawa
Prefectural
University of Arts.*

公立大学法人



沖縄県立芸術大学

OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS

〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵1丁目4番地
TEL 098-882-5000 (代表) FAX 098-882-5033



大学案内 2021

c o n t e n t s

学長あいさつ	01
建学の理念・沿革	02
大学の教育研究上の目的	03
大学組織図・在学生数	04
教員名簿・教職員数	05
教育組織・教育分野・研究領域・学年暦	06
美術工芸学部	08
絵画専攻	10
彫刻専攻	12
芸術学専攻	14
デザイン専攻	16
工芸専攻	18
第32回卒業・修了作品展／卒業・修士論文発表会	22
美術工芸学部の地域貢献	23
音楽学部	24
音楽表現専攻	26
音楽文化専攻	32
琉球芸能専攻	34
奏楽堂	36
音楽学部の地域貢献	37
全学教育センター	38
大学院	
造形芸術研究科 修士課程	40
音楽芸術研究科 修士課程	41
芸術文化学研究科 博士課程	42
芸術文化研究所	43
附属図書・芸術資料館	44
施設紹介	45
卒業後の進路	46
活躍する卒業生	48
国際交流	49
学費・奨学金	50
学生生活サポート	51
入試情報	52
アクセスマップ	53

表紙デザイン 赤塚 美穂子



ごあいさつ

沖縄県立芸術大学は、かつて海洋国家として栄えた琉球國の由緒ある地、首里に1986年に開学して以来、今年で36年目を迎えます。本学の建学の精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統芸術の継承と発展はもとより、新たな芸術創造の可能性を広げ、地域ひいては世界の芸術文化の向上発展に寄与できる人材の育成を教育の理念に掲げています。

自由な精神を礎に人間性を表す芸術活動は、優れて人間らしい営為です。先史の洞窟画や縄文の造形が物語るように、原始太古より創造行為は人類の生活と共にありました。そして、今日の高度情報化社会あるいは国の目指すSociety 5.0（超スマート社会）においては、今まで以上に、人には豊かな感性や自然観が求められます。したがって芸術諸領域に携わる者には、今後ますます社会的役割が期待されると同時に、責任ある場面も増してくることでしょう。

本学は、そのような次代を担う豊かな人間性と社会性、国際的視野を備えた作家や演奏家、実演家、研究者、教育者など芸術分野の専門家として、幅広く地域や社会で活躍できる人材の育成を念頭に、個性の伸長を期した少人数教育を行っています。その中で、芸術を志す人に求められる多様な価値観への理解と、多角的な視点の獲得を共に目指します。

地球規模のコロナ禍によって「徹底した行動変容」が求められる中、強弱こそあれ、まだしばらくは活動抑制を余儀無くされますが、そもそも芸術を志す者の表現への欲求は、その方法の変更はあっても、抑制などできるものではありません。そして、社会はすでに多くの場面で価値観の転換が起きていますが、これもまた芸術の世界では、個の尊重や多様性は言うまでもないことで、むしろ真に恐れるべきは己の価値観の呪縛であります。このことを承知さえしていれば、きっと私どもの生きる術でウィズコロナに対応できるはずで。

これから社会のデジタルシフトは不可逆的に加速し、ますます世界の平準化は進むばかりです。だからこそ、自らの拠って立つ文化を認識し、芸術の多様性、独創性の源泉である、先入観に囚われない批評的精神を、生涯を通して更新し続けたいものです。

世界的な遺跡が散在するこの美しい南の島には、大交易時代から現代に至るまで異文化を受容し個性ある優れた文化芸術を創造してきた歴史と、都市部にあっても大自然の変化を間近に感じることができる得難い環境があります。この沖縄の歴史と環境は自ずと、芸術と共に人生を歩んで行くのに必要な柔軟で強かな精神を育んでくれるに違いありません。

2021年4月

沖縄県立芸術大学長
波多野 泉

建学の理念

日本文化の中における沖縄の地域文化の特性と伝統は、極めて特徴的であり、文化伝統の源流を探り、文化生成の普遍性を究めるために不可欠の内容を持つものである。わけても沖縄固有の風土によって培われた個性的な芸術文化の継承と創造の問題は、日本文化としてはもちろんのこと、沖縄県にとっても重要な課題であるといわざるを得ない。そして、それらを担う人材の育成もまた長い未来への架橋として緊要なことである。

県立芸術大学を建学する基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあるが、そのためには、地域文化の個性を明らかにし、その中に占める美術・工芸・音楽・芸能等さまざまな伝統芸術の問題に積極的かつ具体的に取り組み、その特性を生かすことでなければならない。このことは、日本文化の内容をより豊かにするとともに、ひいては、国際的な芸術的文化活動にも寄与するものと信ずる。

我が国の最南に位置する県立芸術大学は、東アジア、東南アジアを軸とした太平洋文化圏の中心として、それらの地域における多様な芸術文化の実態と、地域文化伝統の個性とのかかわりを明らかにし、その広がりを追究し、汎アジア的芸術文化に特色をおいたユニークな研究教育機関にしたい。

沿革

昭和61年 3月 31日	一般教育棟・管理棟竣工
昭和61年 4月 1日	沖縄県立芸術大学開学 初代学長 山本正男 就任
昭和62年 11月 4日	沖縄県立芸術大学芸術振興財団設立許可
昭和63年 3月 17日	美術棟竣工
昭和63年 10月 7日	登り窯竣工（工芸専攻）
平成元年 3月 26日	体育館竣工
平成2年 3月 26日	第1回卒業式
平成2年 4月 1日	音楽学部設置
平成2年 5月 8日	音楽棟竣工
平成2年 5月 15日	開学5周年・音楽学部開設記念式典開催
平成5年 3月 19日	大学院修士課程造形芸術研究科設置
平成6年 4月 1日	大学院修士課程音楽芸術研究科設置
平成6年 7月 31日	附属図書・芸術資料館竣工
平成7年 3月 31日	奏楽堂竣工
平成7年 4月 1日	美術工芸学部美術学科芸術学専攻開設
平成8年 4月 1日	大学院博士課程芸術文化学研究科設置
平成8年 5月 15日	開学10周年記念式典開催
平成8年 10月 15日	第二代学長 阿部公正 就任
平成9年 3月 31日	福利厚生棟竣工
平成10年 3月 31日	附属研究所棟竣工
平成14年 10月 15日	第三代学長 大嶺實清 就任
平成15年 7月 10日	第四代学長 朝岡康二 就任
平成16年 4月 1日	音楽学部音楽学科邦楽専攻を琉球芸能専攻に改称
平成16年 4月 1日	音楽芸術研究科舞台芸術専攻邦楽専修を琉球古典音楽専修に、 楽劇専修を琉球舞踊組踊専修に改称
平成18年 7月 18日	第五代学長 宮城篤正 就任
平成18年 10月1日～10月31日	開学20周年記念事業「平和祈念公園芸術祭」開催
平成22年 7月 18日	第六代学長 佐久本嗣男 就任
平成23年 11月17日～11月27日	開学25周年記念事業「沖縄・タイ国際交流美術展」開催
平成23年 3月 31日	デザイン中央棟、工芸棟、彫刻棟竣工
平成23年 10月 1日	首里崎山キャンパス開設式
平成24年 4月 1日	デザイン工芸学科工芸専攻に漆芸分野開設
平成24年 4月 1日	大学院後期博士課程芸術文化学研究科に芸術表現（実技系）領域を開設
平成26年 7月 18日	第七代学長 比嘉康春 就任
平成28年 4月 1日	音楽学部を音楽表現、音楽文化、琉球芸能の3専攻に再編 音楽文化専攻に沖縄文化コースを開設
平成28年 9月 22日	開学30周年記念式典開催
令和2年 4月 1日	第八代学長 波多野泉 就任
令和3年 4月 1日	公立大学法人沖縄県立芸術大学 設立

大学の教育研究上の目的

沖縄県立芸術大学は、広く教養を培い、深く専門芸術の技術、理論及び歴史を教授研究して、人間性と芸術的創造力及び応用力を育成し、もって伝統芸術文化と世界の芸術文化の向上発展に寄与することを目的とする。(学則第1条)

沖縄県立芸術大学大学院は、建学の理念に則り、高度な芸術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて芸術文化の創造及び発展に寄与することを目的とする。(大学院学則第1条)

大学の三つのポリシー

■ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

沖縄県立芸術大学では、大学及び各学部の教育理念に沿った専門教育と教養教育において成果をあげ、最終学年における卒業作品又は卒業論文の提出あるいは卒業演奏を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士(芸術)の学位を授与します。その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

- 1 美術工芸又は音楽の分野における基本的な知識を体系的に理解し、その知識体系の意味と自己の存在を歴史や文化、社会と関連付けて理解している。
- 2 知的活動や職業生活、社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、問題解決力などの汎用的基礎能力を身につけている。
- 3 卒業後も社会的責任を認識し、生涯を通じて自律的に学び続ける能力を身につけている。
- 4 1から3までの知識や能力等を総合的に活用し、創造的な思考力をもって自らの課題を探求し、解決する能力を身につけている。

■カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

沖縄県立芸術大学のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、4年間を通して全学教育科目を選択履修し、全学年にわたり専門分野の実技や理論を基礎から高度な内容まで、段階的に履修することを基本に授業科目を編成します。

その上で、さまざまな技術や学問を幅広く主体的に学べるよう配慮し、学生の多様な個性を尊重しつつ、自ら感性を磨き、社会との関係を考え発信していく能力を高める教育を行います。

■アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)

1 教育の理念

沖縄県立芸術大学の建学の基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統芸術の継承と発展にとどまらず、新たな芸術創造の可能性を広げ、幅広く芸術分野で活躍できる人材を育成していきます。さらに、学生の専門的力を高め、豊かな人間性と社会性を身につける教育を目指します。

2 本学の求める人材

- ・本学の教育の理念をよく理解し、学習に必要な基礎的知識・技能を備えている人
- ・芸術に強い関心があり、自ら課題を発見し解決するための思考力や判断力、表現力を備えている人
- ・多様な芸術文化に興味を持ち、主体的に人々と協働し、現代社会に向けて新しい芸術創造の営みを発信していく意欲に満ちた人

3 入学選抜区分

- ・本学では一般選抜、学校推薦型選抜及び社会人選抜を実施します。

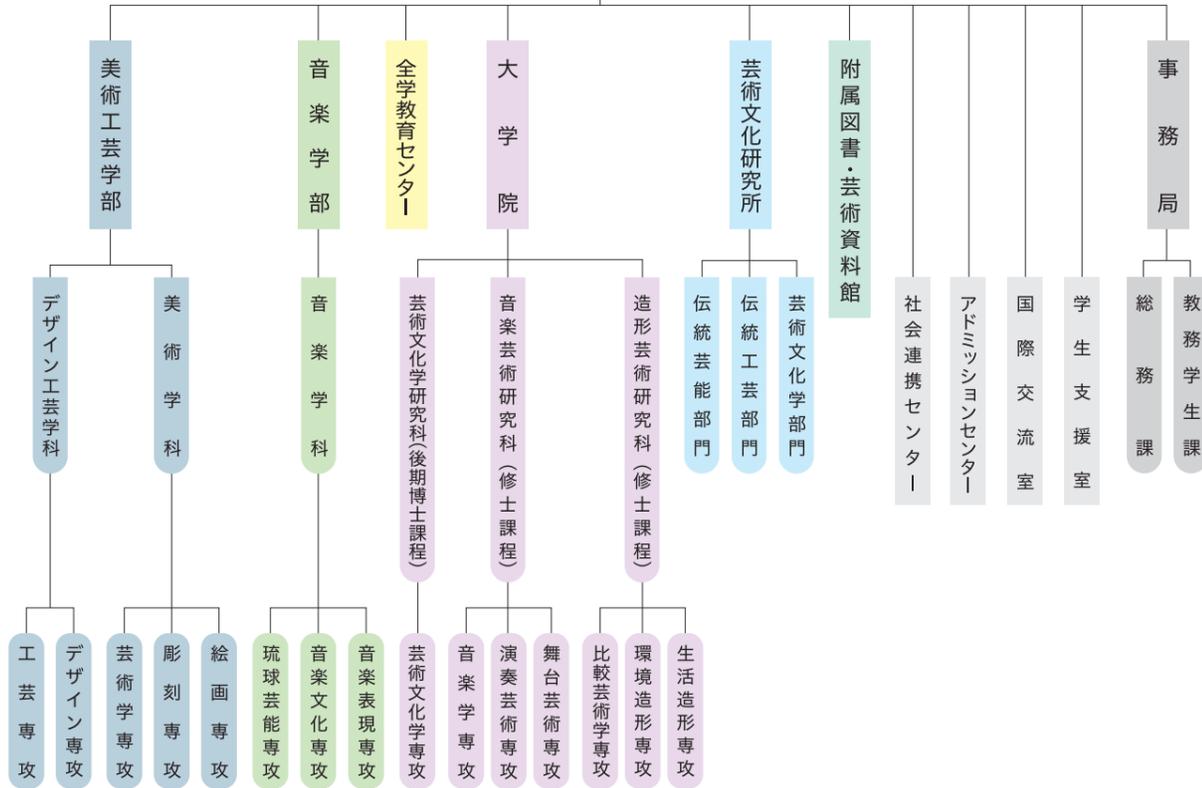
4 入学選抜試験の基本方針と実施

- ・一般選抜においては、大学及び各学部のアドミッションポリシーに基づき、大学入学共通テストの成績を利用した選抜試験と個別学力検査等（実技検査、小論文、口述試験、面接等）を実施します。なお、大学入学共通テストについて、美術工芸学部では、国語、外国語及びその他任意の1科目の合計3科目を試験科目として課します。音楽学部では、国語、外国語の合計2科目を試験科目として課します。
- ・学校推薦型選抜においては、実技検査、小論文、面接等を実施します。
- ・音楽学部の社会人選抜においては、個別学力検査等（専攻試験、小論文等）を実施します。

いずれの試験においても、本学での学習に必要な「学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等）」を測り評価します。

大学組織

沖縄県立芸術大学



● 在学生数

令和2年5月1日現在 単位(人)

学部	学科	専攻	入学定員	総定員数	1年次			2年次			3年次			4年次			合計			
					小計	県内	県外	小計	県内	県外										
美術工芸	美術	絵画	10	40	13	5	8	11	8	3	13	4	9	13	6	7	50	23	27	
		彫刻	5	20	6	0	6	4	1	3	7	0	7	6	2	4	23	3	20	
	デザイン工芸	デザイン	20	80	22	16	6	22	15	7	22	19	3	22	18	4	88	68	20	
		工芸	24	96	26	10	16	23	11	12	24	12	12	31	16	15	104	49	55	
小計			65	260	73	35	38	68	39	29	72	37	35	79	47	32	292	158	134	
音楽	音楽	音楽表現	23	92	29	14	15	25	14	11	26	14	12	27	9	18	107	51	56	
		音楽文化	7	28	7	2	5	5	1	4	2	2	0	9	6	3	23	11	12	
		声楽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	1	1	0	1	1	0
		器楽	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	0	0	0	0	1	1	0	
		音楽学	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		琉球芸能	10	40	9	6	3	15	11	4	3	2	1	14	10	4	41	29	12	
小計			40	160	45	22	23	45	26	19	32	19	13	51	26	25	173	93	80	
合計			105	420	118	57	61	113	65	48	104	56	48	130	73	57	465	251	214	

研究科	入学定員	総定員数	1年次			2年次			3年次			合計		
			小計	本学	他学	小計	本学	他学	小計	本学	他学	小計	本学	他学
造形芸術(修士)	18	36	19	15	4	17	13	4	-	-	-	36	28	8
音楽芸術(修士)	15	30	15	10	5	18	11	7	-	-	-	33	21	12
芸術文化学(博士)	3	9	3	3	0	3	1	2	9	5	4	15	9	6
合計	36	75	37	28	9	38	25	13	9	5	4	84	58	26

※平成28年度音楽学科再編により音楽表現専攻及び音楽文化専攻を設置

合計	549
----	-----

● 教員名簿

令和3年4月1日現在

美術工芸学部 / (院) 造形芸術研究科			音楽学部 / (院) 音楽芸術研究科			全学教育センター				
絵画専攻	教授 知花 均 教授 香川 亮 准教授 高崎 賀朗 准教授 阪田 清子 准教授 喜多 祥泰 准教授 関谷 理 助教 金城 徹	油画・凹版 日本画・凸版 油画・孔版 油画・インスタレーション 日本画 日本画 油画	教授 片桐 仁美 教授 五郎部俊朗 教授 小杉 裕一 教授 岡田 光樹 教授 林 裕 教授 阿部 雅人 教授 澤村 康恵 教授 塚本 一実 准教授 山内 昌也 准教授 松田奈緒美 准教授 大城 英明 准教授 小沢麻由子 准教授 倉橋 健 准教授 屋比久理夏 准教授 土井智恵子 助教 飯島 諒 助教 永井 友恵	アルト テノール ピアノ ヴァイオリン チェロ ホルン クラリネット 作曲 テノール ソプラノ ピアノ ピアノ トランペット 打楽器 作曲 フルート ソプラノ	教授 波平 八郎 教授 森 達也 教授 高良 則子 教授 芳澤 拓也 教授 張本 文昭 教授 藤田 喜久 准教授 麻生 伸一 准教授 城間 祥子	文学概論 博物館学 英語 教育原理 健康・運動理論実技 自然科学 歴史 教育心理学	教授 久万田 晋 准教授 鈴木 耕太 講師 新田 規子 教授 波平 八郎 教授 山田 聡 教授 名護 朝和 教授 高瀬 澄子 准教授 比嘉いずみ 准教授 麻生 伸一	民族音楽学・民族芸能論 琉球文学・文化学 染織工芸史 日本文学・比較文化論 陶芸 織 日本音楽史 琉球舞踊 歴史	教授 尾形希和子 准教授 喜屋武盛也 准教授 土屋 誠一 教授 小林 純子 教授 金 恵信 教授 波平 八郎 教授 森 達也 教授 鈴木 耕太 教授 高瀬 澄子 教授 向井 大策 教授 小西 潤子 教授 遠藤 美奈 教授 久万田 晋 教授 呉屋 淳子 教授 山田 聡 教授 砂川 亮 教授 香川 亮 教授 仲本 賢 教授 高田 浩樹 教授 阿部 雅人 教授 仲嶺 伸吾 教授 山内 昌也	図像解釈学 美学 近・現代美術史・写真論 日本美術史 東洋美術史・アジア近現代美術 日本文学・文化学 工芸史・考古学 琉球文学・文化学 日本音楽史 西洋音楽史 民族音楽学 民族音楽学 民族音楽学 文化人類学 民俗芸能研究 陶磁器・立体造形 彫刻 日本画 視覚伝達デザイン 視覚伝達デザイン ホルン 歌三線・安富祖流 声楽
彫刻専攻	教授 波多野 泉 教授 砂川 泰彦 准教授 河原 圭佑 講師 長尾 恵那 助教 中島聖二郎	塑造・木彫・乾漆 他 石彫 他 金属 他 木彫 他 ミクストメディア 他	(院) 演奏芸術専攻	(院) 音楽文化専攻	(院) 琉球芸能専攻					
芸術学専攻	教授 尾形希和子 教授 小林 純子 教授 金 恵信 准教授 喜屋武盛也 准教授 土屋 誠一	西洋美術史 日本美術史 東洋美術史 美学 芸術学	(院) 比較芸術学専攻	(院) 音楽学専攻	(院) 舞台芸術専攻					
デザイン専攻	教授 赤嶺 雅 教授 仲本 賢 准教授 笹原 浩造 准教授 宮里 武志 准教授 又吉 浩 准教授 高田 浩樹 講師 赤塚美穂子 助教 大城 愛香	グラフィックデザイン 映像デザイン グラフィックデザイン 環境デザイン メディアデザイン プロダクトデザイン プロダクトデザイン イラストレーション	教授 谷本 裕 教授 小西 潤子 教授 高瀬 澄子 教授 呉屋 淳子 教授 遠藤 美奈 教授 倉橋 玲子 教授 向井 大策 教授 神谷 武史	アートマネジメント 民族音楽学 日本音楽史 文化人類学 民族音楽学 西洋音楽史 西洋音楽史 アートマネジメント	教授 仲嶺 伸吾 教授 山内 昌也 教授 高瀬 澄子 教授 新垣 俊道 教授 比嘉いずみ 教授 阿嘉 修 助教 嘉数 幸雅	琉球古典音楽 琉球古典音楽 琉球舞踊 琉球舞踊 琉球古典音楽 琉球舞踊 組踊 琉球古典音楽	教授 名護 朝和 教授 山田 聡 教授 花城美弥子 教授 久保田寛子 准教授 富真 茂 講師 宇良 京子 講師 島袋 克史 講師 松崎 森平 助教 島袋知佳子 助教 宮城 愛美 助教 金城 宙矛	染陶 織 織 漆 染陶 陶 漆 織 染陶		

● 教職員数

	学長	教授	准教授	講師	助教	助手	事務職員数
教職員	1	32	29	8	3	5	22
小計						78	22
総合計							100

● 専攻別教員数

学部等	学科等	専攻	計
美術工芸学部	美術	絵画	7
		彫刻	4
		芸術学	5
	デザイン工芸	デザイン	8
		工芸	11
全学教育			4
小計			39
音楽学部	音楽	音楽表現	16
		音楽文化	8
		琉球芸能	7
	全学教育		4
小計			35
芸術文化研究所			3
合計			77

● 男女別教員数

部局/職位	教授		准教授		講師		助教		助手		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
美術工芸学部	13	4	8	3	3	3	2	0	0	3	26	13
音楽学部	9	5	7	10	1	0	1	0	1	1	19	16
芸術文化研究所	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	1
計	23	9	16	13	4	4	3	0	1	4	47	30

教育組織・教育分野・研究領域

美術工芸学部								音楽学部									
美術学科				デザイン工芸学科				音楽学科									
絵画専攻 定員10名		彫刻専攻 定員5名		芸術学専攻 定員6名		デザイン専攻 定員20名		音楽表現専攻 定員23名				音楽文化専攻 定員7名		琉球芸能専攻 定員10名			
油画	日本画	塑造	美学	生活デザイン	工芸 二年生後期に各分野に分かれます。				声乐コース	ピアノコース	弦楽コース	管打楽コース	作曲理論コース	沖縄文化コース	音楽学コース	琉球古典音楽コース	琉球舞踊組踊コース
油画	平面	木彫	芸術学	産業デザイン	染	織	陶芸	漆芸	独唱	独奏	独奏	独奏	創作	沖縄を中心とする 音楽・舞踊の研究 アートマネジメント	日本音楽 西洋音楽 民族音楽	歌三線 琉球箏曲	琉球舞踊 組踊
平面	模写	石彫	日本美術史	環境デザイン	紅型(筒・型)、 型染、夾織、 捺染	緋織、浮織、 綴織、組織、 素材	成形、陶土、 磁土、焼成、 薪窯、 ガス窯、 電気窯	漆精製、 素地、 髹漆、加飾、 乾漆	重唱	重奏	室内楽	室内楽	編曲				
版画	絹本	金属	東洋美術史	グラフィックデザイン				オペラ	伴奏	オーケストラ	オーケストラ	音楽理論					
映像・写真表現	空間表現	テラコッタ	西洋美術史	映像デザイン					合唱								
専門教育科目(必修・選択)								専門教育科目(必修・選択)									
全学教育科目(リテラシー科目(日本語、情報、外国語)、一般教養科目(人文科学、社会科学、自然科学)、)								芸術教養科目、沖縄の文化に関する科目、健康運動科目)、資格課程(教職課程、博物館学課程)									

造形芸術研究科												音楽芸術研究科						
環境造形専攻 定員6名			生活造形専攻 定員9名						比較芸術学専攻 定員3名			舞台芸術専攻 定員4名		演奏芸術専攻 定員8名			音楽学専攻 定員3名	
絵画専修		彫刻専修	デザイン専修		工芸専修				比較芸術学専修			琉球古典音楽専修	琉球舞踊組踊専修	声乐専修	ピアノ専修	管弦打楽専修	音楽学専修	作曲専修
油画 研究室	日本画 研究室	彫刻 研究室	視覚伝達 デザイン 研究室	生活環境 デザイン 研究室	染 研究室	織 研究室	陶磁器 研究室	漆工 研究室	美学・芸術学 研究室	美術史 研究室	民族芸術 文化学研究室	歌三線 琉球箏曲	琉球舞踊 組踊	独唱 オペラ	独奏 重奏 伴奏	独奏 室内楽 オーケストラ	音楽史 民族音楽学 舞踊芸能論	創作 編曲 楽曲分析
油画 平面表現 映像・写真表現 版画表現 空間表現	日本画	塑造 木彫 石彫 金属 テラコッタ ミクストメディア	視覚伝達 デザイン	生活環境 デザイン	染 (型染)	織 (織制作)	陶磁器 (陶磁原料研究 陶磁器研究)	漆工 (日本漆芸 琉球漆芸)	比較芸術学 比較美学 日本・東洋・ 西洋の美学・ 芸術学	日本・東洋・ 西洋の美術史学	琉球文学 民族文化学 日本文学 比較文化学 アジア工芸史							
関連科目												関連科目						
芸術文化学研究所												(後期博士課程)						
比較芸術学研究領域						民族音楽学研究領域			芸術表現研究領域									
比較美学・芸術学 芸術批評史 民族芸術文化学						音楽史 民族音楽学			民族芸能論 造形芸術 音楽芸術									
芸術文化研究所																		
伝統芸能部門						伝統工芸部門			芸術文化学部門									

学年暦

4月 1日 学年開始及び前学期開始 1日~14日 前学期授業科目の登録期間 2日 入学式 1日~2日、5日~6日 新入生オリエンテーション(学部・大学院) 7日 前学期授業開始	7月 3日 芸術文化学研究所(博士課程)研究発表会(2年次以上) 17日 卒業論文、修士論文中間研究発表会[芸術学、比較芸術学] 26日~30日 前学期期末試験 31日~8/4 彫刻学部生展、院生展	10月 1日 後学期開始及び後学期授業開始 2日 第32回洋楽定期公演 10日 オープンキャンパス(音楽学部) 15日 博物館実習ガイダンス 16日 第32回琉球芸能定期公演 23日~24日 大学院音楽芸術研究科入試 31日~11/1 芸大祭準備期間(休講)	2022年 1月 11日 後学期後半授業開始 15日~16日 大学入学共通テスト 23日 第27回オーケストラ定期演奏会 28日~2/3 後学期期末試験 28日~2/4 大学院音楽芸術研究科修士演奏会 29日~2/2 工芸専攻3年生展
5月 11日~12日 定期健康診断 15日 開学記念日(休業)	8月 1日~9/10 夏季休業 1日 オープンキャンパス(美術工芸学部・音楽学部)	11月 2日~3日 芸大祭(休講) 20日~21日 学校推薦型選抜(美術工芸学部・音楽学部)	2月 5日~6日 大学院造形芸術研究科入試(2月試験) 9日~13日 彫刻1・2・3年生展、院生1年生展 12日 第25回室内楽定期演奏会 16日~20日 美術工芸学部・大学院造形芸術研究科卒業・修了展 22日 卒業論文・修士論文発表会(音楽文化専攻、音楽学専修) 25日~27日 一般選抜(前期日程) 28日~3/1 大学院芸術文化学研究所入試
6月 13日 オープンキャンパス(美術工芸学部・音楽学部) 23日 慰霊の日(休業) 27日 ぬちぬぐすーじさびらコンサート in 摩文仁 (沖縄平和祈念堂)	9月 4日~5日 大学院造形芸術研究科入試(9月試験) 6日~28日 教育実習(中学校及び高等学校教育職員免許状取得予定者) 11日~28日 前学期集中講義、自由研究及び補講期間 下旬 後学期授業科目の登録期間 30日 前学期終了	12月 4日~5日 博物館実習見学会・報告会・事後指導 4日 芸術文化学研究所(博士課程)研究発表会(1年次) 15日~19日 絵画専攻空間表現展内覧会 24日~28日 後学期12月集中講義期間 20日~1/7 冬季休業	3月 1日~31日 春季休業 2日~3日 絵画専攻油画2・3年生展 4日 第29回卒業演奏会 12日~14日 一般選抜(美術工芸学部 後期日程) 18日 卒業式・修了式 20日 オープンキャンパス(美術工芸学部) 31日 後学期終了及び学年終了

美術工芸学部

【美術学科】 【デザイン工芸学科】

絵画専攻	デザイン専攻
彫刻専攻	工芸専攻
芸術学専攻	染分野 織分野
	陶芸分野 漆芸分野

美術工芸学部の目的

美術工芸学部は、伝統芸術文化の継承と創造的芸術の表現を専門的かつ横断的に教授研究して、優れた芸術家をはじめとする社会的に活躍できる人材を育成し、もって幅広い芸術文化の発展に貢献することを目的とする。(学則第4条の1号)

美術工芸学部の教育方針

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、沖縄の伝統に根差した美術工芸はもちろん、造形芸術に新たな地平を切り拓き、自ら社会的役割を見出せる作家や研究者などの専門家の養成をめざします。

高い技術や専門知識、総合的かつ国際的な視野を身につけ、次代を担う個性的で優れた人材を育成します。

■ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、大学ディプロマ・ポリシーを基本に、加えて以下に掲げる学修成果を獲得し、最終学年における卒業作品又は卒業論文の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士(芸術)の学位を授与します。

- 1 美術・デザイン・工芸の分野における基本的な知識を体系的に理解している。
- 2 自己の創造的活動を歴史、文化、社会、自然等と関連付けて考察できる。
- 3 専攻分野の専門的な技能と研究能力を身につけている。
- 4 卒業後も主体的に創作、研究を継続し、それらを社会に発信する意欲と能力を備えている。

■ カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、大学カリキュラム・ポリシーを基本に、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

- 1 専門分野の実技と理論において、必修科目を中心とした体系的な授業科目の編成
- 2 専門教育の4年間にわたる段階的履修
- 3 自らの学修計画に基づき主体的に履修できる選択科目の編成
- 4 大学の学修活動全体を通じて汎用的基礎能力を育成する教育の実施
- 5 現代社会における美術・デザイン・工芸の役割を認識し、地域との連携を図り、社会との関係を学ぶ教育の実施

学修成果の評価は、評価の観点を示した上で授業科目の到達目標の達成度を基準に、作品・論文・レポート・筆記試験等により行います。



■ アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

【教育の理念】

大学の教育理念に基づき、沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、沖縄の伝統に根差した美術工芸はもとより造形芸術に新たな地平を切り拓き、自ら社会的役割を担える作家、研究者、教育者などの専門家を育成するため、専門的素養と総合的知識、国際的視野を身につける教育を行います。

【求める人材】

美術工芸学部の教育を達成するために、次に掲げる知識・技能や能力(思考力・判断力・表現力等)、目的意識・意欲等を備えた人材を求めます。

- 1 本学及び美術工芸学部の教育の理念をよく理解し、大学での学習に必要な基礎的な知識と技能を備えている人
- 2 美術・デザイン・工芸分野における制作や学習において、自ら課題を発見し解決するための思考力、判断力、表現力を備えている人
- 3 美術・デザイン・工芸の分野において作家、研究者、教育

者などの専門家になる意欲のある人

- 4 芸術文化の多様な背景を理解し、人とのコミュニケーションを大切に考え、社会性を認識し主体性を持って他者と協働できる人
- 5 沖縄固有の芸術文化や自然等に関心があり、沖縄で学ぶことに意義を見出せる人

【入学者選抜試験の基本方針と実施】

美術工芸学部においては、学部の教育理念を踏まえ、各専攻の専門性に沿った試験を課し評価します。また、専攻ごとに設定された多様な入試科目において、「学力の3要素(基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性)」を総合的に評価します。なお、入試区分及び募集枠ごとに総合点の上位から合格者の選抜を行います。

各入試区分における評価方法は以下の通りです。

- 1 一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語、外国語及び任意の1科目の合計3科目を課し、大学での学習に必要な知識、技能、思考力等を測り評価します。また、個別学力検査等において、実技検査、小論文、面接(プレゼンテーションを含む)を実施し、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。
- 2 学校推薦型選抜では、絵画・デザイン・工芸各専攻は課題作品、小論文の提出と面接(プレゼンテーションを含む)を、芸術学専攻は小論文の提出と面接、口述試験を実施し、大学での学習に必要な知識、技能、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び高等学校長からの推薦書、志願者本人の記載する資料等を活用します。

絵画専攻 絵を描き心の眼を養う

● 油画 ● 日本画



<http://www.okigei.ac.jp/details/arts/painting.html>

(絵画専攻 HP) <http://www.okigei.ac.jp/painting/>

■ アドミッション・ポリシー

人は生きる指針、共存する証として、どのような時代においても絵を描き続けてきました。高度に情報化し、グローバル化した現代の社会環境においても、自分自身の現実感や存在感を測り、イマジネーションを共有する手段として、普遍的な絵画表現の意義や社会的役割を問うことは、とても重要と考えます。

絵画専攻では、亜熱帯に位置する沖縄の歴史・芸術文化・環境・自然に理解と愛情を持ち、自らの専門性と創作力を高めるために、造形教育の専門性に対して探究心を持って取り組み、他者とのコミュニケーションを積極的に育む人材を求めています。

■ 教員からのメッセージ 関谷 理



絵画専攻は油画、日本画のふたつの分野があり、それぞれにカリキュラムが設定されています。専門科目の授業ではより深い専門性を、関連科目の授業では横断的に幅広い授業が展開され、そのなかで個々の感性を磨きながら技術を高めていくことができます。

沖縄は風土、文化とも非常に特色がある地域です。この独自の環境は、皆さんの秘められた才能や新たな感性を発見、発掘することにつながると思います。多くの芸術家が新たな創作を生み出し、展開してきたこの環境で共に学びましょう。

専任教員 | 日本画・油画

- 知花 均 教授(油画・凹版)
- 香川 亮 教授(日本画・凸版)
- 高崎 賀朗 教授(油画・孔版)
- 阪田 清子 准教授(油画・インスタレーション)
- 喜多 祥泰 准教授(日本画)
- 関谷 理 准教授(日本画)
- 金城 徹 助教(油画)



■ カリキュラム・ポリシー

存在価値の多様化や均質化するグローバル情報社会にあって独創的な画家や造形作家、教育者に求められる基本的な実技能力(観察、描写、素材応用、プレゼン)を深める教育を行います。多様な絵画・造形表現の理解と課題制作による学修から美的価値観を涵養する中で個性を伸ばし、展示や講評、学外活動などを通じ他者理解と社会性を育みながら、学生の独自性を尊重した教育を目指します。個性的な表現活動を支える身体的技術力と思考力、教養と専門性の深度を総合的に養い、卒業後も創作活動を継続し美術の社会的役割に反映しうるよう自ら課題を創出し、独創的な表現を探求する能力を育成します。



卒業・修了作品展 展示風景



卒業・修了作品展 展示風景



日本画 箔実習



日本画制作風景



凹版実習



油画制作風景

油画、日本画の授業概要

油画分野では素描、ドローイング、油彩、素材応用表現をカリキュラムの土台とし、版表現、映像表現、インスタレーションやパフォーマンス等の実習を通して現代に対応する感性、表現力を養います。2、3年次の進級展を通して自己が創出する表現テーマを探求し、段階的に卒業制作へ向かいます。

日本画分野では素描と伝統的な材料技法の基本を理解する事から始め、実習を通して模写、絹本、箔、裏打ち等を習得し、課題制作として人物、風景、自由制作などで修練を重ね、現代に於ける表現研究の下に自己のテーマに基づいた卒業制作に向かいます。

両分野の共通の授業としては、学外演習(離島フィールドワーク)や古美術研究(京都、奈良を主とした研修旅行)、写真(アナログ)や版画(凹凸平孔)実習、特論I、II授業として美術作家、キュレーター、評論家による集中講義があります。

■ 絵画専攻の必修科目

- 絵画基礎
- 日本画I
- 箔
- 日本画II-I
- 日本画II-II
- 日本画III-I
- 日本画III-II
- 装丁実習
- 日本画IV
- 油画I
- 油画II-I
- 油画II-II
- 油画III-I
- 油画III-II
- 染
- 油画IV
- 空間デザイン
- 絵画特論I
- 絵画特論II
- 古美術研究
- 彫刻(絵)
- デザイン(絵)
- 工芸(絵)

佐藤 ゆり

(さとう ゆり)



(岩手県出身)
2020年10月現在
絵画専攻日本画 4年生

芸術と関わったり絵を描いたりしている時間は、何かを追われるような余裕のない感情になることなく、心豊かになれる時間であり自分にとってとても大切な時間でした。進路選択時、大学では本格的に絵画の勉強をしたかった時に、幼き頃に家族で旅行に来た沖縄の風景が思い出されました。豊かでのびのびとした植物や自然、どこかゆったりと時間が流れているように感じる空気、おおらかで思いやりに溢れる沖縄の方々。様々なものが、この地で芸術と向き合いたいと感じさせる魅力だと感じました。

この大学で勉強する中では、決して何かに縛られることなく、自由で自分らしい表現を突き詰めることができました。そして、沖縄県に来る前はわからなかったこの地のたくさんの魅力に気付くことができ、より一層幅広い視点から制作に向き合うことができました。

彫刻専攻 今だからこそ、自分の手で作る力を。



<http://www.okigei.ac.jp/details/arts/sculpture.html> (彫刻専攻 HP) <http://www.okigei.ac.jp/sculpture>



金属実習

■ アドミッション・ポリシー

彫刻専攻では、将来、彫刻を中心に造形芸術の様々な分野で活躍し社会に貢献できる作家、教育者など専門家になれる人材の育成を目指します。そのために、学部アドミッション・ポリシーを基本に、基礎的な観察力、造形力、立体表現能力を備え、自己を深く見つめ自然や社会との関係を思索し、何よりも造形行為と自己の将来を肯定的に重ね合わせることでできる人を求めています。

専任教員 | 彫刻

- 波多野 泉 教授 (塑造・木彫・乾漆他)
- 砂川 泰彦 教授 (石彫他)
- 河原 圭佑 准教授 (金属他)
- 長尾 恵那 講師 (木彫他)
- 中島 聖二郎 助教 (ミクストメディア)

■ 教員からのメッセージ 砂川 泰彦



彫刻は人や動物などの形を作った古典彫刻からはじまり、現代では作品制作の動機が個人的なものや社会性を含むものまで、制作者の多様な価値観から生まれる彫刻表現が広がっています。沖縄で東西の古典を礎に、彫刻の制作を通して自らを深く見つめ、みなさんが本来持っている創造性を磨いてみませんか。いろんな輝きを見つめることができると思っています。

■ カリキュラム・ポリシー

将来、専門家として創作活動を行うのに必要な基礎学修の中で、個性の伸長を期して主体性・独創性を重視した教育を行います。また、学内外での実践的、体験的プログラムにおいて、学生の社会性と協働精神の育成を図ります。

彫刻専攻の教育課程は、導入から専門教育まで単に造形技術の修練のみにとどまらず、将来にわたって自ら主体的にテーマを見出し、独創的な表現の探究を続けて行くための基礎的な能力育成を目的としており、学部カリキュラム・ポリシーを基本に、教養・専門、実技・理論教育を一体的、総合的に捉えています。学修成果は、学修目標の達成度を基準に、課題等の成果物とそれに至る試行、造形思考の深さ、説得性などによって総合的に評価します。



塑造実習



石彫実習



木彫実習



テラコッタ実習



伊藤 銀「蟬」



野田 竜也「傍ら」



小林 真理子「友人像」

教育課程の概要

彫刻専攻では、学生個々の創造能力育成に主眼を置き、1年次から3年次前期期を通して塑造、石彫、木彫、金属、鑄造、テラコッタ等の基本的な技法と理論を修得します。また、古典から近現代にいたる彫刻とその周辺の歴史を学びつつ、3年次後学期から自己のテーマに基づいて、より実践的な展示発表を前提とした制作を行い、4年次では、前・後学期ごとに明確な計画を立てて制作し卒業作品とします。卒業生の8割は大学院へ進学しています。

教育環境

彫刻専攻の教室・アトリエは、1年次から大学院まで、学年を越えた共通の学習・制作の現場となっており、下級生は上級生との交流の中で多くを学ぶ環境にあります。

また、大学と社会の関わりを実践的に学ぶため、市町村との共催による学外での演習、展覧会、シンポジウム等を行い、さらに広く国際的な視野を培うため、海外の芸術大学や卒業生の留学先等との国際交流を積極的に進めるなど、活気に満ちた教育環境づくりに専攻を挙げて取り組んでいます。

■ 彫刻専攻の必修科目

- 彫刻I～IV
- 古美術研究
- 構成
- 絵画(彫)
- 工芸(彫)
- 彫刻特論I・II
- デッサン
- 鍛造・鑄造
- デザイン(彫)
- 美術解剖学I(骨)
- 彫刻史

小泉 ゆりか

(こいずみ ゆりか)

(香川県出身)
2020年10月現在
造形芸術研究科
環境造形専攻彫刻専修 2年生



私は、学部・大学院共に沖縄県立芸術大学で彫刻を学んでいます。学部では、様々な素材を基礎から学び、自分にあった素材選びや作品と研究の方向性について学ぶ事ができました。それぞれの素材に専門の先生がいるため、より深い知識を学ぶ事ができると思っています。大学院に入ってからには自己のテーマに基づき、担当の先生に相談し、指導を受けながら研究を進めています。

アトリエが広く、設備が充実しているので大きな作品を作ることも可能です。そして少人数制のため、それぞれ距離を取りながらの制作も可能です。密を避けなければならない昨今でも対応可能な制作環境だと思います。自然に囲まれた風通しのよい作業スペースはとても快適です。

ぜひ一緒に彫刻を学びましょう。

芸術学専攻

芸術や美とは何かを追求し、
批評精神を養う。

http://www.okigei.ac.jp/details/arts/art-studies.html (芸術学専攻HP) http://www.okigei.ac.jp/geijutsu/Welcome.html



■ アドミッション・ポリシー

芸術学専攻は沖縄県の特徴ある文化と歴史を尊重し、日本にのみとどまらず国際的な教養を備え、芸術の様々な領域で活躍できる人材の育成を目指します。この目的のため、本専攻では以下の人材を求めます。

1. 多様な芸術作品や芸術に関する現象に興味を持ち、それらについての知見や情報を進んで収集する意欲を持つ人。
2. 芸術についての知識や思想を「言葉」によって表現し、他者と知的なコミュニケーションを交わすことに関心がある人。
3. 現代社会における芸術のあり方を考え、その未来を展望することを目指す人。
4. 芸術作品を積極的に鑑賞し、また制作や芸術運動への参加を通じて、具体的な経験に即した思考を行える人。

専任教員 | 芸術学

尾形 希和子 教授 (西洋美術史)
小林 純子 教授 (日本美術史)
金 恵信 教授 (東洋美術史)
喜屋武 盛也 准教授 (美学)
土屋 誠一 准教授 (芸術学)

■ 教員からのメッセージ 金 恵信

(きむ へしん)



考えながら感じる芸術

芸術学専攻は、「沖縄で芸術を学び、世界を眺める」学びと実践の場です。ここでは、芸術表現そのものを体験する実技、芸術作品の歴史、哲学、理論を考察する美術史、美学、芸術学の授業、成果を見せる展示企画と研究発表の場が用意されています。大きな窓から首里城が見える芸術学専攻専用の自習室で沖縄の芸術文化の風と空気を感じながら、古代から現代までの東西の芸術を学び、人生の次なるステージへの設計をしてみませんか。

■ カリキュラム・ポリシー

芸術学専攻では、芸術に関する論文を書くことの出来る学問的な力を備えた学生の育成を主要な目的としています。研究の対象となる分野は、沖縄の文化芸術のみならず美学・芸術学・日本美術史・東洋美術史・西洋美術史と幅広く設定され、学生の個性に応じて、自分に相応しい学問領域を選択できるようになっています。

また、芸術大学の学生にふさわしい実技と理論の調和を目指すことも大切な目的の一つです。語学を選択範囲も広く、英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・ラテン語・漢文などの他に、日本語の歴史的な文書を読むための授業科目を受講できます。

1年次においては実技と理論の学習が半々になるようにカリキュラムが構成されていますが、2年次以降では、理論と歴史や語学などの学習が中心となります。2年次における「学外研究」で多くの芸術作品に触れ、芸術と社会とのかかわりを考える機会を得ることによって、自分の目指す分野が明確になっていきます。3年次で専門分野の研究を深め、4年次の「卒業論文」において、学生はそれまで大学で学んだ知識と陶冶された感性を有効に用いて一つの研究課題の下に論文を執筆することになります。

さらに、就学中に博物館学課程や教職課程の科目を受講することで、学芸員資格や教員免許状を取得することができるように配慮されています。



授業風景



実技研究



学外演習



学外研究

教育課程の概要



■ 芸術学専攻の必修科目

- 実技研究
- 基礎演習
- 学外研究
- 卒業論文 (他選択必修科目あり)

権 嬉原

(ぐおん ひうおん)

(韓国大邱出身)
2020年3月 芸術学専攻卒業



私は、高校生のころから美術館へ行くことが趣味で、美術館という空間が好きでした。そして、学芸員という職業に目が移り芸術学専攻に入る契機となりました。作品を用いて、新しい意味を生み出すという創作活動に強く魅力を感じ、入学後は、学芸員資格のカリキュラムを履修し、自分が望んでいた勉強ができたのは在学中得られた成果です。

芸術学は芸大でも特殊な専門とみなされることが多いです。人に「芸術学です」と言うと、高い確率で「何を描いている?」という質問が戻ってきます。私は沖縄居住、韓国人、留学生などの、特殊なアイデンティティで大学4年を過ごしました。私にとって最も大きな学びは、自分に真正面から向き合い、新しい世界に一步踏み出す過程で、自分が感じることを言語化する能力を得たことです。そして、それに共感し、意見が混じり合う場を作るのは、芸術学でしかできない素敵な経験かもしれません。芸術学専攻に進学を考える人にも、このような経験を味わってほしいです。

デザイン専攻 南の島でデザインを学ぼう。



<http://www.okigei.ac.jp/details/arts/design.html>

■ アドミッション・ポリシー

デザイン専攻は、日本最南端に位置する沖縄県の特徴ある文化を、誇りを持って受け継ぎ、伝統や工芸の基礎的研究を基に、地域の経済・産業や文化活動との連携を図りながら、今日のデザインの課題を理解し、未来的志向に立つ高度な情報技術と、国際的な視野を持つ人材の育成を目的とします。以上の目的に賛同し、主体的な学習能力を養い、専門分野に片寄らない健全な社会人となれるような人物を求めています。

■ 教員からのメッセージ 宮里 武志



気候変動に対する危機意識が高まり、持続可能な開発目標であるSDGsを始めとする様々な取り組みがあります。加えて昨今は新型コロナウイルス感染症によって、今までの生活スタイルが大きく変わりました。

デザインは社会と密接な関係にあり相互に影響し合うため、今後のデザインのあり方も変わっていくことでしょう。ローカル（地方）とグローバル（全体）の造語であるグローカルという言葉があります。それは広い視点を持ちながら地域の特色や特性を考慮していくことで、実践するには沖縄ほど相応しい場所は無いと考えています。

専任教員 | デザイン

赤嶺 雅	教授 (グラフィックデザイン)
仲本 賢	教授 (映像デザイン)
笹原 浩造	准教授 (グラフィックデザイン)
宮里 武志	准教授 (環境デザイン)
又吉 浩	准教授 (メディアデザイン)
高田 浩樹	准教授 (プロダクトデザイン)
赤塚 美穂子	講師 (プロダクトデザイン)
大城 愛香	助手 (イラストレーション)

■ カリキュラム・ポリシー

デザイン専攻では専門領域の垣根を取り払い、様々なデザイン分野の中から学生が主体的に授業を選択できるようにカリキュラムを編成しています。

- デザイン専攻のカリキュラムの編成に関しては以下の6点に集約できます。
1. 伝統工芸の基礎的研究、地場産業や地域の文化に強く根ざしたデザインを育てる。
 2. 情報化社会への融合とそのための取り組みを行う。
 3. 国際的視野に立った専攻カリキュラム編成を行う。
 4. 時代に合った地域社会、経済との連携と就職に結びつくカリキュラム編成を行う。
 5. 主体的な向学心を育成するために、多くのデザイン科目を自ら選択できる。
 6. 社会人としての人格形成。社会性のある人物を育てる。

また、各学年に学ぶ主なこととして、1年生では、デザインの基礎を学び、デザインを学ぶ者としての自覚を促す。2年生では、デザイン機器と素材の研究をし、合わせてグループ研究を行いながら、3年生では、公共物のデザイン等を通して、デザイナーとしての社会的役割を確認。4年生では、個別の卒業制作を通してデザイナーとしての個人的資質の追求を行う。この4年間の過程を通じて、市場の調査方法、社会から支援を得る方法、企画の適切な提示方法等を学び、デザイナーとしての資質を完成させます。

デザイン専攻は、社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

教育課程の概要

デザイン専攻は、1年次に造形基礎を通して描写力・構成力を養い、2、3年次では分野的領域を選択制度により、専門的な実習・演習・講義を行います。さらに、3年次のインターンシップ(企業実習制度)は産学の結びつきを意識し、実社会との接点の有効性を期待しています。4年次では、各学生が独自のテーマを設定し、卒業制作を行います。



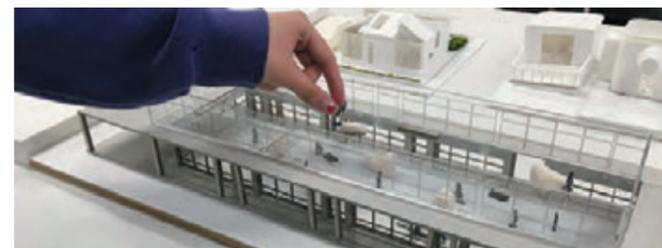
■生活デザイン

生活道具としての器具・機器の開発や改良に関する造形的学習をします。



■産業デザイン

情報、生産、流通などを通して、製品計画について学習します。



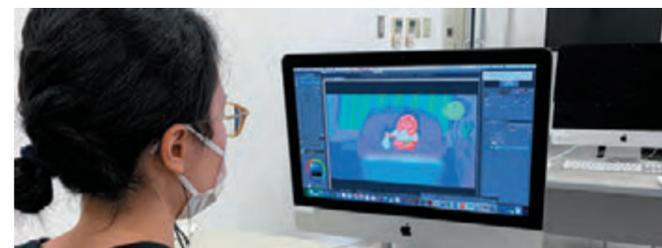
■環境デザイン

公共空間における様々な生活装飾や空間の造形的学習をします。



■グラフィックデザイン

広告やサイン計画を通して、レイアウト、イラストレーション、レタリング等の学習をします。



■メディアデザイン

アニメーション、絵本、キャラクター、Webなどの様々なメディアを通して表現方法を学習します。



■映像デザイン

写真、ビデオ、CGを中心に、映像表現を学習します。

■デザイン専攻の必修科目

- デザインI
- デザインII-I
- デザインII-II
- デザインIII-I
- デザインIII-II
- デザインIV-I
- デザインIV-II
- 学外研究
- デザイン特別演習

安里 貴志 (あさと たかし)

(沖縄県出身)
デザイナー
2018年 デザイン専攻 卒業
2020年 造形芸術研究科生活造形専攻デザイン専修 修了
2020年 株式会社たき工房(東京都) 入社

絵を描くことが好きで芸術やデザインに興味があったので、好きなことを仕事にできればいいなど本学への進学を決めました。入学してからは主にグラフィックデザインを学んでいましたが、商品開発に参加したり、大学院では模様になんだ研究をしてみたりと、色々なことに挑戦していました。卒業後はデザイン表現の幅を広げたく東京のデザイン制作会社に就職しました。

本学の良かったと思う点は、たくさんの工房があって様々なデザイン分野に触れることができる環境だったこと。また、沖縄という土地でゆるゆると制作に打ち込めるのも大きな魅力であると思います。好きなことを一貫して続けるにも、得意分野を見つけるのにもすごく良い場所です。大学をよりよく活用して、思い思いに充実した時間を過ごせれば可能性は広がっていくと思います。



工芸専攻 感性を磨き、新しい伝統を創造する。

 <http://www.okigei.ac.jp/details/arts/crafts.html>

■ アドミッション・ポリシー

- ・沖縄固有の文化、また広く地域の芸術文化に関心があり、将来工芸作家、教育者、研究者等専門家として活躍できる人。
- ・工芸技術の習得及び研究に興味があり、意欲的に作品制作に取り組み、感性を磨き、他とのコミュニケーションを密にして、自ら積極的に学び、自己形成に努力できる人。
- ・芸術文化、とりわけ伝統工芸、伝統文化の継承、発展に関心があり、グローバルな視点で沖縄の工芸文化研究に意欲のある人。

■ 教員からのメッセージ 山田 聡



2020年は、私たちがこれまでに体験したことのない、未曾有の感染症の渦に巻き込まれました。ウイルスは、スポンジに水が染み込んで全体に広がるように地球を包み込み、世の中の空気感是不快指数が増していくように重く息苦しさを覚えました。まだ出口が見えない中、皆さんも大変な思いで日々を過ごしていることでしょう。

大学も同様に、当たり前には制作が出来ていたことが夢だったかのように、その時間と場所が奪われてしまいました。

しかし、大学の実技系授業は感染対策を取り日常を戻しつつあります。このような状況に対峙しながら、私は「つくる」ことが人間の根幹にある行為であり、大学は対面の交流を通して学生を逞しくしていく場と確信しました。

私達教員は「つくる」ことを通して、皆さんが困難に立ち向かう力を養い、蓄えるための時間と場所を提供できるように日々努力しています。

今、なにを感じ、どのような表現をするのか、乗り越えた先の明日を一緒に体感していきましょう。



専任教員 | 染・織・陶芸・漆芸

[染分野]	[織分野]	[陶芸分野]	[漆芸分野]
名護 朝和 教授	花城 美弥子 教授	山田 聡 教授	當眞 茂 准教授
宇良 京子 講師	久保田 寛子 准教授	島袋 克史 講師	松崎 森平 講師
宮城 愛美 助手	島袋 知佳子 助教	金城 宙矛 助手	

染分野



■ カリキュラム・ポリシー

染分野では、紅型に代表される型表現を基礎とした様々な染色技法を習熟することによって現代社会に発信・展開する力を身につける教育を主眼としています。紙漉・琉球藍研究等を通して素材の知識を深め、型紙研究、着物制作において造形力を高めるカリキュラムです。

技術力に裏打ちされた創造性豊かな染色表現ができる人材育成を目指しています。

陶芸分野



■ カリキュラム・ポリシー

陶芸分野では、素材、思考、技術の3つのファクターの相互関係や運動性をカリキュラムの根幹として考えています。陶という可能性を秘めた素材を知覚することによって創造するという欲求が生まれ、それと連動するように思考が始まり、その思考を具現化させるために技術や造形力が必要となります。学部ではこの3つのファクターの相互関係や運動性の理解を促し、様々なカリキュラムを通して陶でできる多角的な表現力・造形力を養い、それを社会に対し発信できる人材の育成を目指しています。

教育課程の概要

1年次から2年次前期まで美術全般を幅広く学ぶことで工芸専攻の基礎力を養うと同時に工芸専攻の4分野(染・織・陶芸・漆芸)の実習を通し、工芸制作の基礎を学びます。

2年次後期からは4分野に分かれ、専門的に素材の知識、技法や表現を3年次まで学び、学部の集大成として4年次の卒業制作へと進みます。

織分野



■ カリキュラム・ポリシー

織分野では、絣や浮織技法を用いた織制作をはじめ、沖縄特有の植物繊維の糸作りなど天然素材研究を行います。多様な専門技術や表現方法を学び造形表現への展開を図り、個性のある創作へと応用、展開を行います。

そして、織を通して沖縄の自然や文化、社会との関わりを模索し、自己の将来を明確に展望できる人材の育成を目指しています。

漆芸分野



■ カリキュラム・ポリシー

漆芸分野では、琉球漆芸の技法や表現を吸収するとともに、幅広く日本漆芸全体を学ぶことを基礎とした上で各自の個性を伸ばす教育を目標としています。独自のカリキュラムを通して、創作活動を実践していく専門性を習得することと同時に就職などの多様な進路にも対応し、現代社会に貢献できる「人間力」を身につけることも目指しています。創造の柱となる「素材・技術・表現」を3要素として「歴史・科学・社会」とリンクしながら総合的なバランスの良い教育を展開していきます。

■ 工芸専攻の必修科目

- 描写
- 色彩
- 立体構成
- 立体造形(工)
- 版画
- デザインと素材
- 絵画(工)
- 彫刻(工)
- デザイン(工)
- 古美術研究
- 工芸Ⅰ
- 工芸Ⅱ
- 染Ⅰ
- 染Ⅱ
- 染Ⅲ
- 織Ⅰ
- 織Ⅱ
- 織Ⅲ
- 繊維科学
- 染色化学
- 染織特別演習
- 陶芸Ⅰ
- 陶芸Ⅱ
- 陶芸Ⅲ
- 窯業化学
- 陶芸特別演習
- 漆芸Ⅰ
- 漆芸Ⅱ
- 漆芸Ⅲ
- 漆芸科学
- 漆芸特別演習

染分野教育環境

染分野には、着物制作専用の引染工房があり、3年次の課題で全員が着物を染めます。また、タペストリーやパネル等の大きな作品を染める工房もあります。共同の施設として、講義室、染場、外部作業場、コンピュータ室等もあり、充実した制作環境が整っています。



引染工房



2年生「型紙研究」



3年生「紙漉」



4年生「琉球藍研究」



修了制作 喜屋武 凜子「鳳尾蕉」



卒業制作 清水 理央「せとぎわ」

織分野教育環境

織分野では、一人一台織機完備の織工房をはじめ、糸染めや染色実験を行う染場や外部作業場、撚糸機を備えた織機械室、意匠設計を行うコンピュータ室、素材研究に必要な芭蕉畑等、制作・研究環境の充実を図っています。



織工房



工芸専攻三年生展



着物ファッションショー



卒業制作 宮城 良美「星のみち」



卒業制作 奥原 和幸「陽炎」



新井田 桜子
着物「小春日和」、帯「ときめき」

清水 理央 (しみず りお)

(兵庫県出身)
2020年10月現在
工芸専攻 染分野 4年生



高校から芸術大学への進学を考える際に、沖縄の伝統工芸に興味を持ち、沖縄県立芸術大学に進学することを決めました。工芸専攻では、染・織・陶・漆の4分野を体験して各分野に分かれます。その為、「工芸には興味があるけれど、自分に合った分野が分からない」という方でも安心して学べる環境だと思います。私は全分野に興味がありましたが、自分自身の制作スタイルや作りたい作品のイメージに合った染分野を選択しました。作品制作において、思い通りにいかないことも多くありますが、工芸の場合はそれが味になり思わぬ発見があります。そういった事を楽しみながら沖縄で学んだ時間は私にとって宝物です。卒業後は一般企業に就職しますが、沖縄で学んだ事はこれからの人生で絶対生きてくと確信しています。そう思えるくらい充実した学生生活でした。

奥原 和幸 (おくはら かずゆき)

(愛媛県出身)
2020年10月現在
工芸専攻 織分野 4年生



油絵を描く父の背中を見て育った私は芸術に触れる機会も多く、地元のアパレルにあるデザイン科高校に進学したことをきっかけに染織に興味を持ち始めました。特に自然が大好きで綿花を栽培したり、タデアイを育てて生葉染めを試したりしました。更に良い作品作りをしたくて本学へ進学することを決めました。天然染料を用いた色見本作りや植物繊維の苧麻や芭蕉の授業、蚕を一から育てての絹糸作りなど、より自然と関わる事ができる織分野に惹かれていきました。織分野では、原料を扱うだけでなく道具の使い方、織物の組織や緋の技法など作品を通して糸から布に、布から服や着物に仕立てることも学びます。本学での工芸は、亜熱帯の風土から生まれた独特な文化を肌で感じる事が出来、多くの発見を通じて自分をより大きく成長させてくれる場だと思います。

漆芸分野教育環境

漆芸分野では、実習室に様々な道具や材料を機能的に収納できる個人作業机を置き、デザインワークや下地作業を行います。加飾室や塗部屋、大型作品の制作スペースとしての造形室や木工室の施設、電機回転ぶろ、乾漆用電気炉、堆錦用電動ローラー、回転研磨機、漆精製用ふね他、多くの機器を備えています。



漆芸実習室



螺鈿



漆精製



3年「蒔絵」



乾漆



沈金・密陀絵・箔絵・堆錦



卒業制作

陶芸分野教育環境

陶芸分野では、一人に一台ずつ電動轆轤が与えられます。そして様々な焼成実習が行えるように登り窯・ガス窯・電気窯を設置し、また釉薬などの科学的な実験や研究も行えるように釉薬調合室や実験機器の設備の充実を図っています。



焼成室



ロクロ実習



蹴ロクロ実習



須藤 祥太郎「島器」



中条 絢「You Are Not Alone」

前田 美海 (まえだ みなみ)

(大阪府出身)
2020年1月現在 漆芸分野 4年生
2017年4月
美術工芸学部 工芸専攻入学
2019年10月
あいづまちなかアートプロジェクト作品出品
2020年10月
あいづまちなかアートプロジェクト作品出品
2021年3月
美術工芸学部 工芸専攻卒業
2021年3月
日本漆工協会 漆工奨学賞受賞
2021年4月 本学大学院進学



私は高校の同級生の多くがデザイン関係に進路を決める中、興味から本学の工芸専攻を受験することに決めました。しかし、特に何かやりたいことが決まっていた訳ではなく、漠然としたまま授業を受けていました。工芸専攻での分野選択の段階で、漆芸分野に進むことにしましたが、それは、工芸へ興味を持ったきっかけである漆芸に、授業を通して改めて魅了されたからです。漆芸分野では道具作りから授業がスタートし、様々な慣れないことにもどかしさが募るばかりでしたが、そんな時は先生や先輩方へ相談し、同級生と共になんとかやり遂げました。そして初めて漆を上塗りした時は、感動と達成感で満たされたことを覚えています。漆芸を始めて約2年間、あつという間の充実した毎日でした。今後も知識や技術を深めていくために、制作を続けていきたいです。

小館 光姫 (こたて みつき)

(埼玉県出身)
2020年10月現在 陶芸分野 4年生



沖縄のゆっくりとした暖かい空気が心地よく、鮮やかな色彩と独特の文化を身近に感じながら学べる環境に惹かれ、本学への進学を決めました。工芸専攻では4分野の実習を経て専門分野を選択します。そのため、じっくり各分野について知ることができるので、自分のやりたい事にしっかり向き合いながら進路を決めることができます。陶芸分野ではまず電動ろくろで基礎的な技法を学び、そこから様々な技法演習に進むことで表現の幅が広がりました。それらを経験する中で自分が好きな表現、作りたい作品のイメージが見えて来ました。今回の卒業制作では技法演習で教わった非常勤講師の先生方と連絡を取り合い、多くの助言とお力をいただきました。陶芸分野の作業場は開放的で、同期とはもちろん、他学年や先生方とも密に関わり合い、互いに刺激し合えるような環境です。本学で学んだ事や経験した事を活かし、これからも色々な事に励んでいきたいと思っています。

第32回 卒業・修了作品展 修士論文・卒業論文発表会

本年度は未曾有のコロナ禍の中、新型コロナウイルス感染症に対する徹底した感染防止対策の下での開催となりました。沖縄県立博物館・美術館において卒業・修了作品展、本学大講義室において修士論文・卒業論文発表会をオンラインで行い、幾多の制約と困難がありましたが、研鑽した成果を世に発表することが出来ました。華やかなイベントは残念ながら中止となり、作品を純粋に展示して静かに見て頂くことに絞った、原点のような展覧会となりました。その中で表彰式は非公開ですが厳かに行なえ、受賞者の栄誉を讃えることが出来たことは幸いです。

沖縄県の芸術文化を担う機関の連携によって、成果をより広範に発信すると同時に社会に還元し、発信者と受け手のより良い出会いの場を創出することを目指しています。

各賞受賞者

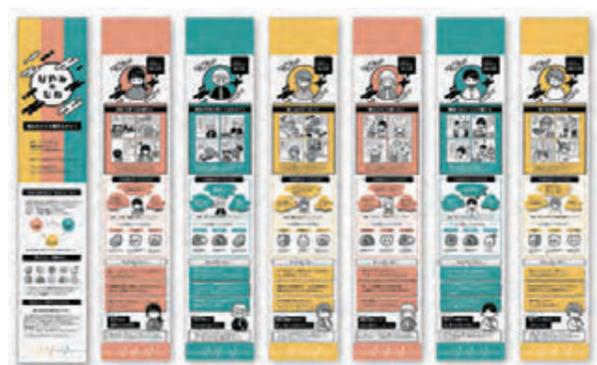
■北中城村長賞
大学院造形芸術研究科生活造形専攻工芸専修 漆工研究室 大城 史織 「優游涵泳」

■北中城文化協会賞
美術工芸学部デザイン工芸学科デザイン専攻 玉元 楓 「なやみのたね」

■沖縄美ら島財団理事長賞
大学院造形芸術研究科生活造形専攻工芸専修 染研究室 浦川愛菜 「輝きを纏ふ」

■沖縄県立博物館・美術館長賞
美術工芸学部美術学科芸術学専攻 竹嶋 良騎 「大今良時と山田尚子 二つの『聲の形』論」

■デパートリウボウ賞
大学院造形芸術研究科生活造形専攻工芸専修 漆工研究室 上江洲 安龍 「朱漆花鳥堆錦沈金八角東道盆 花信風に舞う」



デザイン専攻 玉元 楓「なやみのたね」



工芸専修 上江洲 安龍 朱漆花鳥堆錦沈金八角東道盆「花信風に舞う」

美術工芸学部の地域貢献

絵画専攻 共用空間でのホスピタリティー事業

一なは市立病院100点の絵画作品展—
期間：2012年9月～現在
場所：那覇市立病院

概要：絵画専攻では公立病院内に絵画・版画・写真などの、学生と教員の作品を展示するプロジェクトを行なっています。病院という医療公共空間において芸術作品によるホスピタリティー（思いやり、心からのもてなし）空間創出の効果を高め、確かめる共同研究の一環として行なっています。



デザイン専攻 中城村の特産品開発・デザイン専攻

期間：2021年3月18日～23日
場所：中城村新庁舎
支援団体：中城村

概要：デザイン専攻では、2年生の共同研究の授業で市町村を対象に特産品の開発を行っています。この授業は地域の活性化と、学生と社会との繋がりを目的にしており、平成15年度より継続して行っている授業です。また、地域貢献を含め、社会に対するデザインの役割を考える授業でもあります。今まで行った市町村は、初年度の宜野座村を皮切りに、昨年は恩納村に対し提案を行いました。初回から数えると16市町村と1施設で実施したことになります。前年度の中城村は、村内に琉球王朝時代の史跡や物語が数多く、また自然が豊かで、学生たちは農作物では県内一の生産量を誇る島野菜にも脚光を当てました。企画の最後には中城村新庁舎にて3月18日(木)から23日(火)まで展示を行いました。



比較芸術学専攻 アート・レクチャー／※特別講座

期間：2020年10月9日、16日、23日
実施方法：オンデマンド配信

概要：第1回 金恵信『朝鮮王朝の布と刺繍』
第2回 喜屋武盛也『＜芸術の終焉＞あれこれ』
第3回 森達也『中国明朝と琉球王国の王冠(皮弁冠)—絵画資料、出土品、尚王家伝世品の比較研究—』



「芸術学」という魅力ある学問をひろく皆様に知って頂くため毎年開講しています。2020年度は比較芸術学専攻の教員が初のYouTubeによるオンデマンド講座を行いました。その結果、遠方にお住まいの方々にもご視聴頂くことができ、大変好評を博しました。また、不定期ではありますが、県内外からゲストをお呼びし特別講座も開催しています。

工芸専修 沖縄県立芸術大学×リウボウ「技とアートの展示販売会」

期間：2020年9月25日～28日
場所：リウボウ6F催事場

概要：工芸専修では、株式会社リウボウインダストリーのお力添えもありデパート・リウボウ6階催事場で展示販売会を行いました。内容は、工芸専修の染、織、陶磁器、漆工の4研究室で研究制作を行っている大学院生達が、日頃の成果である作品の展示や生活に焦点を当てた作品の販売を通して、地域の方々に対して工芸の魅力を感じてもらおうものでした。また、卒業後に工芸の担い手として活躍しているOB・OGの出品協力も得て、沖縄工芸の活気も示すものでした。コロナ禍での開催でしたが、多くの方が足を運び作品を鑑賞、気に入った作品はご購入頂きました。盛況の中、訪れた皆様からの助言や激励の声は、制作する喜びと継続する励みになった4日間でした。



音楽学部

【音楽表現専攻】 【音楽文化専攻】

- 声楽コース
 - ピアノコース
 - 弦楽コース
 - 管打楽コース
 - 作曲理論コース
- 沖縄文化コース
 - 音楽学コース
- ## 【琉球芸能専攻】
- 琉球古典音楽コース
 - 琉球舞踊組踊コース

■ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

沖縄県立芸術大学音楽学部では、大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下に掲げる学修成果を修め、最終学年における卒業演奏又は卒業作品、卒業論文、卒業研究の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士(芸術)の学位を授与します。

- 音楽・伝統芸能の各分野における基本的知識・技能について体系的に理解している。
- 音楽・伝統芸能の各分野における基礎的知識、技能について歴史、文化、社会、自然と関連付けて理解できている。
- 課題解決に必要な汎用的能力(論理的思考力、情報リテラシー、コミュニケーション・スキル等)を身につけている。
- 各分野の専門的な知識・技能と研究能力を身につけている。
- 卒業後も社会における自己の役割を認識し、生涯を通じて自律的に学び続ける能力を身につけている。
- 獲得した知識や能力等を活用し、自らの課題を発見し解決する能力を身につけている。

■ カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

沖縄県立芸術大学音楽学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学習成果を獲得できるよう、大学カリキュラム・ポリシーを基本に、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

- 学生の多様な資質・能力を伸長するための少人数による教育
- 専門教育(主要科目)における、4年間にわたる段階的履修
- 各専門分野における基本的知識・技能を培うための、必修科目を中心とした体系的・横断的な科目編成
- 自然や地域、言語、芸術諸分野及び一般教養など幅広い教養を通して、汎用的基礎能力を身に付けるための全学教育科目の編成
- 学生の多様な関心や課題発見を促し自律的に学習できる選択科目の設定
- 様々な学びを統合し、地域・社会との連携を通して、芸術(音楽・芸能)と社会との関係を学ぶ科目の提供

学修成果の評価は、評価の観点を示した上で授業科目の到達目標の達成度を基準に、演奏・演舞・作品・実践・レポート・筆記試験等により行います。

音楽学部の目的

音楽学部は、音楽・芸能に関する専門的技術及び諸理論を教授研究して、音楽・芸能の分野における知識、技術、表現力及び他者との協働により社会に対して汎用化できる能力を備えた人材を育成し、もって幅広い芸術文化の発展に貢献することを目的とする。(学則第4条の2号)

音楽学部の教育方針

沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄の地で育まれた個性の美である伝統芸能はもとより、西洋・東洋にわたる芸術音楽を体系的に研究教授し、将来、実演家、教育者、研究者をはじめとして、音楽芸術分野において社会に貢献できる人材の育成をめざします。

豊かな表現力と高い技術力、そして理論的思考力を涵養し、それらを総合して現代社会に新たな価値をもたらすことのできる人材を育成します。



■ アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)

大学の教育理念に基づき、沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄で育まれた個性ある音楽・芸能及び普遍的価値を持つ音楽芸術の体系的な研究を通じ、それらの継承発展とともに新たな芸術創造に寄与できる人材育成を目指します。そのために、専門分野における知識・技能を深めるとともに、広い視野を持って思考し、問題解決を行うために必要な教養を身につける教育を行います。

【求める人材】

音楽学部の教育を達成するために、次に掲げる知識・技能や能力(思考力・判断力・表現力等)、目的意識・意欲等を備えた人材を求めます。

- 本学及び音楽学部のポリシーを十分理解し、大学での学習に自律的に取り組むことのできる人
- 音楽学部における学習に必要な基礎的知識・技能及び課題解決のための思考力・判断力・表現力を備えている人
- 自身の知識・技能をさらに伸ばし、将来、演奏家、作曲家、実演家、研究者又は教育者など、音楽・芸能分野における専門家となる意欲のある人

- 芸術創造の営みについて、現代社会との関わりの中で思考し、主体性を持って多様な人々と協働する意欲のある人
- 音楽や舞踊、沖縄における芸術文化や本学での学びに関心がある人

【入学選抜試験の基本方針と実施】

音楽学部においては、学部の教育理念を踏まえ、各専攻の専門性に沿った試験を課し評価します。その際、大学入学前に学んでおくべき内容・水準について、募集要項と併せて公表する『試験曲』によって明示するものとします。また、専攻ごとに設定された多様な入試科目において、学力の3要素(「基礎的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性・多様性・協働性」)を総合的に評価します。なお、入試区分及び募集枠ごとに、総合点に基づき合格者の選抜を行います。

各入試区分における評価方法は以下の通りです。

- 一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語、外国語の2科目を課し、大学での学習に必要な知識・技能、思考力等を測り評価します。また、個別学力検査等において、専攻試験

(実技検査、小論文、口述試験等)、音楽に関する基礎能力検査(楽典、聴音、新曲視唱、副科ピアノ等)及び面接を課し、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。本区分においては、全般的な学習能力について総合的に評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。

- 学校推薦型選抜では、専攻試験(実技検査、小論文、口述試験等)、音楽に関する基礎能力検査(楽典、聴音、新曲視唱、副科ピアノ等)及び面接を課し、大学での学習に必要な知識、技能及び主体性等を測り評価します。本区分においては、専門分野における高い能力、調査書及び志願者本人の記載する書類等をもとに実施する面接等における評価を重視します。また、高等学校長からの推薦書を活用します。
- 社会人選抜では、専攻試験(実技検査、小論文、口述試験等)を課し、大学での学習に必要な知識、技能、思考力及び主体性などを測り評価します。本区分では、専攻実技の習熟度及び小論文・口述試験の内容を重視し評価します。

音楽表現専攻



<http://www.okigei.ac.jp/details/music/expression.html>

感性を磨き、自由に音楽を表現しよう。

- 声楽コース
- ピアノコース
- 弦楽コース
- 管打楽コース
- 作曲理論コース



教育課程の概要

音楽表現専攻は声楽・ピアノ・弦楽・管打楽および作曲理論の洋楽実技系コースからなり、垣根を超えた教育研究を行っています。各コースでは、個人レッスンを中心に、演奏や作曲の技能を修得する過程で各分野の専門的能力を養います。また共通する実技および理論系科目を履修することで多様な視点を持った音楽観やコミュニケーション能力を身に付け、これらを基に社会とのつながりを深められる人材育成を行います。卒業後は学校教員や音楽教育者、オーケストラ奏者をはじめとするプロ活動など、大学で培った実力を県内外・海外で発揮しています。

■ 教員からのメッセージ

岡田 光樹



自分と音楽に向き合う時間を!

声楽から作曲理論まで、5つのコースで構成された音楽表現専攻では、それぞれのコースの特色を生かした専門分野の学習はもちろんのこと、小規模校ならではのメリットを生かした、きめ細かい指導を行います。一昨年度の音楽学部創設30周年を機に、近年では、専攻・コースの枠を超えた琉球芸能とのコラボレーションなど、新たな芸術表現に挑む人たちが増えてきました。多様化するとともに様々な課題をもつ現代社会において、芸術や音楽の果たす役割が今まで以上に期待されるようにも思われます。独自の歴史文化をもつ沖縄において、じっくりと音楽や自己に向き合い、新たな挑戦をしたいと考えている皆さんとの出会いを待っています。

専任教員 | 声楽コース

片桐 仁美 教授 (アルト)
 五郎部 俊朗 教授 (テノール)
 山内 昌也 准教授 (テノール)
 松田 奈緒美 准教授 (ソプラノ)
 永井 友恵 助手 (ソプラノ)

専任教員 | ピアノコース

小杉 裕一 教授
 小沢 麻由子 准教授
 大城 英明 准教授

専任教員 | 弦楽コース

岡田 光樹 教授 (ヴァイオリン)
 林 裕 教授 (チェロ)

専任教員 | 管打楽コース

阿部 雅人 教授 (ホルン)
 澤村 康恵 教授 (クラリネット)
 倉橋 健 准教授 (トランペット)
 屋比久 理夏 准教授 (打楽器)
 飯島 諒 助教 (フルート)

専任教員 | 作曲理論コース

塚本 一実 教授
 土井 智恵子 准教授

声楽コース

■ アドミッション・ポリシー

音楽に興味を持ち、歌が好きで、音楽の総合的な研究を通して自らの世界を見つけたいと思っている人を求めています。

■ カリキュラム・ポリシー

声楽家や音楽教育者として活躍し得る人材育成を目標としています。独唱、合唱、重唱、オペラなどの授業を通して、声楽技術の習得と感性を養う指導を行い、それと合わせて音声生理学・舞台語発音演習・和声・音楽史等の授業で、知識と理解を深めるカリキュラムとなっています。



4年次オペラ



大学院オペラ



片桐先生レッスン風景

■ 声楽コースの必修科目

- 声楽実技
- 合唱
- オペラ総合実習
- 重唱
- 舞台表現演習
- 音楽基礎演習
- ソルフエージュ
- 和声
- 副科ピアノ
- 西洋音楽通史

■ 主な選択科目

- 声楽アンサンブル基礎
- 舞台語発音演習
- 音声生理学
- 音楽史
- その他

島 成美

(しま なるみ)
 (沖縄県出身)
 2020年10月現在 大学院音楽芸術研究科 演奏芸術専攻 声楽専修



沖縄県立芸術大学に進学した一番の決め手は、実技の授業が多く、教職課程も取得できることです。専門の授業では、クラスを分けて少人数制で教えて頂き、一人一人のスキルに合った充実した授業を受けることができました。教職課程では、美術学部の学生も一緒に受講しているため、多くの学生と友達になれたり、ペア学習やグループワークなどの実践的な取り組みが多いため、教育実習の際にそれを応用して活かすことができました。

また、授業では教わらない、社会人へのメールのやり方や挨拶などを先輩から学び、非常勤の先生や学外活動で連絡を取る際に役立ちます。学業だけでなく、社会の常識やマナーなども学生生活を通して学ぶことができるのも魅力の一つです。

大学院では、自分が研究したいことを追求していくので、じっくり時間をかけて深く学ぶことができます。実技レッスンとは別に、協奏曲研究や声楽特殊研究という授業もありますが、オーケストラと演奏できたり、声楽の先生方全員から歌を学べる機会があるのも、本学だからこそ経験することができる大きな特徴です。

ピアノコース

■ アドミッション・ポリシー

ピアノ音楽に興味と探究心を持ち、音楽をこよなく愛する人を求めています。独奏だけでなく、伴奏やアンサンブルを通じて、音楽的・人間的な幅を広げたいという意欲を持っている人を求めています。

■ カリキュラム・ポリシー

専門実技を軸に、4年間を通して段階的に独奏及びアンサンブルの演奏能力を高めるとともに音楽理論や音楽史等で学んだ知識を踏まえ、適切な演奏法を習得します。地域社会との連携を含む学内外での多くの演奏実践を通して社会性を培い、音楽の普遍的な魅力を次世代に伝えられる豊かな感性を備えた人材育成を目指します。



卒業演奏会



小沢先生レッスン風景



ピアノ構造学



学内演奏会



協奏曲研究

■ピアノコースの必修科目

- ピアノ実技
- ピアノ重奏
- 伴奏法
- 音楽基礎演習
- ソルフェージュ
- 和声
- 西洋音楽通史
- 鍵盤音楽史
- ピアノ構造学

■主な選択科目

- 室内楽
- 対位法
- 演奏解釈論
- ピアノ指導法
- その他

大城 優一

(おおしろ ゆういち)

(沖縄県出身)

2020年10月現在 大学院音楽芸術研究科 演奏芸術専攻 ピアノ専修



この学校で学びはじめて6年目になります。沖縄で生まれ育った私にとって、地元で音楽を学べることはとても幸せです。

本学は他大学に比べて少人数のため、現在も演奏家として活躍されている先生方から手厚い指導を受けることができます。ソロだけでなく連弾や2台ピアノといった重奏の授業も行われているため、幅広いレパートリーに触れることができます。また、室内楽や伴奏法の授業も充実しており、アンサンブルも思う存分学ぶことができます。学内演奏会も多く行われており、ソロのみならず、他の楽器の伴奏としても多くのステージ経験を積むことができます。また、本学は、素晴らしい響きをもつ演奏堂ホールを兼ね備えており、試験や演奏会で学生は皆このホールで演奏することができます。これは、本学ならではの大きな魅力だと思います。

毎年開催されているオーケストラ定期演奏会では、オーディションで選ばれるとオーケストラとピアノ協奏曲を共演することができます。さらに、定期的に国内外から著名なアーティストを講師としてお招きし、演奏会や公開講座が行われており、たくさんの刺激を受けることができます。

沖縄の自由な風土の中で、あなたも自分の可能性を広げてみませんか。

弦楽コース

■ アドミッション・ポリシー

弦楽器を通して音楽を探求し、広く芸術分野で自己を表現したいと思っている人を求めています。

■ カリキュラム・ポリシー

古典から現代に至るさまざまな作品を課題として、弦楽器の独奏と合奏(アンサンブル)を学習します。専門実技(独奏)を中心に、室内楽、弦楽合奏及びオーケストラといったアンサンブルの実践的学習を通して、演奏技術や表現について体系的に学習するとともに、学生の関心に応じた科目設定ができます。



洋楽定期公演後に



弦楽アンサンブル基礎 授業



室内楽 学内演奏会



洋楽定期公演

■弦楽コースの必修科目

- 弦楽実技
- 弦楽アンサンブル基礎
- 弦楽合奏
- オーケストラ
- 音楽基礎演習
- ソルフェージュ
- 和声
- 副科声楽
- 西洋音楽通史
- 副科ピアノ

■主な選択科目

- 室内楽
- 楽曲分析
- 管弦楽史
- 管弦楽法概論
- その他

島田 優香

(しまだ ゆか)

(沖縄県出身)

2020年10月現在 弦楽コース3年生



私の在籍している弦楽コースは、小規模校であるメリットを活かしたカリキュラムが充実しています。学生と先生方との関係性が近く、親身になってひとりひとりに合った指導をしてくれるので自分のペースで着実に学ぶことができます。

また学生が少ない分、より多くのステージ経験を積むことができ、学びと成長の機会に溢れていると感じます。オーケストラや室内楽などでプロの演奏家として県内で活躍しておられる演奏員の先生方が同じ舞台上に立ってくださることは、この大学ならではの大きな魅力です。先生方の演奏を間近で見たり聴いたりすることで勉強になることが多くあり、とても恵まれた環境で学ばせていただいていると実感しています。

大学生活の面でも、お互い励まし合い高め合えるような仲間たちに恵まれて、楽しく充実した日々を過ごしています。学部や専攻の垣根を越えた繋がりも濃く、ここで出会った人との繋がりは私にとって一生の宝物になるだろうと思います。

管打楽コース

■ アドミッション・ポリシー

それぞれの専門楽器の演奏向上に努め、広く芸術分野で活躍できる人を求めています。また、音楽を通して豊かな人間性、社会性を身に付けたいという意欲のある人を求めています。

■ カリキュラム・ポリシー

管打楽コースは木管楽器、金管楽器、打楽器に大別されます。楽器種ごとに経験豊かな教員が段階的にきめ細かい指導を行うことにより、高度な技術と豊かな音楽性を持った音楽家・指導者の育成を目指します。室内楽・管打合奏ではアンサンブルの技術だけではなく、協調性や社会性を養います。1年次から4年次までソロやオーケストラなど、数多くの演奏会に出演することで多くのことを学修することができます。



管打合奏学内演奏会



室内楽定期演奏会



倉橋先生 レッスン風景

■ 管打楽コースの必修科目

- 管打楽実技
- オーケストラ
- ソルフェージュ
- 西洋音楽通史
- 管打合奏
- 音楽基礎演習
- 和声
- 副科ピアノ

■ 主な選択科目

- 室内楽
- 管弦楽史
- 管弦楽法概論
- 演奏解釈論
- その他

宇根 ひかり

(うね ひかり)
(沖縄県出身)
2020年10月現在 管打楽コース4年生



本学は、他大学と比べ少人数制であることが特徴の一つです。そのため、オーケストラや室内楽、吹奏楽などの授業で多くの曲を演奏する機会があり、沢山の経験を積むことができます。そして、現在も演奏家として第一線で活躍されている先生方から、一人一人丁寧に充実したレッスンを受けることができるのも少人数だからその魅力だと思います。

私が大学生活で大切だと感じることは、自ら積極的に行動することです。本学の先生方や学生は本当に温かく、どんな事でも挑戦する際には全力でサポートしてくれます。自分が挑戦したいことに素直に取り組めることも本学の魅力の一つだと思います。また、私は自然が大好きなので、自然に触れながら好きなことを学べる本学の環境もとても魅力的だと感じています。

沖縄の豊かな自然のもとで、私たちと一緒に音楽を学びませんか？

作曲理論コース

■ アドミッション・ポリシー

古典から現代にいたる作曲作品を研究・分析し、創造的な音楽作品を生む能力を獲得することに意欲と情熱をもって取り組める人材を求めています。

■ カリキュラム・ポリシー

作曲理論の基礎的な能力を身に付け、近・現代に至る楽曲の研究を通して、作曲作品を制作することを目標としています。1年次の独奏楽器とピアノによる二重奏から、自由なアンサンブルによる4年次卒業作品まで、学年が進むにつれて様々な編成形態を経験できるようにカリキュラムが組まれており、各年次に作品を提出し、実音にする機会が与えられています。



試演会本番！



試演会草稿



試演会浄書

■ 作曲理論コースの必修科目

- 作曲実技
- 音楽基礎演習
- 楽曲分析
- 対位法
- 作曲演習
- ソルフェージュ
- 西洋音楽史
- 鍵盤楽器実技

■ 主な選択科目

- 管弦楽法概論
- 鍵盤音楽史
- 管弦楽史
- 声楽史
- その他

油田 耀

(あぶらだ ひかる)
(長崎県出身)
2020年10月現在 作曲理論コース2年生



沖縄の海、人、モノ、時間、そして「音楽」が私は大好きです。自らの世界観で自由に表現できる「作曲」。私はこの大学で、音楽的な基礎力を身につけながら様々な楽曲に触れ、日々の講義の中で新しい「発見」や「なるほど」に充実感を得ています。作曲理論コースでは、創作に必要な作曲技術や理論面を幅広く学ぶことができます。また、個人レッスンが中心となっているため先生方との距離が近く、丁寧に徹底した指導が受けられます。先生方は学生の創作意欲に応え一人一人に的確なアドバイスをくださいます。その先生方の熱心な専門技術指導により、学生がそれぞれの求める音楽を追究し学べる環境が整っています。

ゼミでは古典から現代までのあらゆる作品の分析や創作活動により作曲法を学び、年度末の試演会では一人一人が作り上げた作曲作品を他コースの演奏者の協力のもと実音で発表します。それは学年が進むにつれて様々な編成形態で取り組むため、コースの垣根を越えてたくさんの仲間たちとの交流があります。音楽を共に学ぶ仲間からたくさんの刺激を受けることができるところも大きな魅力のひとつです。

音楽文化専攻

音楽を深く知って、
社会とつながる

 <http://www.okigei.ac.jp/details/music/culture.html>

● 沖縄文化コース ● 音楽学コース



沖縄文化コース

■ アドミッション・ポリシー

古典から現代に至る沖縄の音楽・芸能と文化について広い関心と問題意識を持ち、沖縄の音楽文化振興への貢献を目指したい人を求めています。

専任教員 | 沖縄文化コース

谷本 裕 教授 (アートマネジメント・文化政策)
 呉屋 淳子 准教授 (文化人類学)
 遠藤 美奈 准教授 (民族音楽学・沖縄芸能研究)
 神谷 武史 講師 (アートマネジメント・文化政策)

音楽学コース

■ アドミッション・ポリシー

ある程度の音楽的実践能力を背景に、さまざまな音楽や芸能とその文化的脈絡について広い関心と問題意識を持ち、深く考える能力を備えた人を求めています。

専任教員 | 音楽学コース

小西 潤子 教授 (民族音楽学)
 高瀬 澄子 教授 (日本音楽史)
 倉橋 玲子 准教授 (西洋音楽史)
 向井 大策 准教授 (西洋音楽史)

教育課程の概要

音楽文化専攻では、沖縄をはじめ日本やアジア、世界中のさまざまな音楽や芸能とその文化的脈絡について学問的に理解し、自らのことばで的確に表現する力を身につけます。講義、実技科目によって音楽文化に関する歴史や理論、実践を幅広く学ぶとともに、演習、実習科目によって専門的能力を高め、沖縄県内のみならず国内外で音楽と社会の架け橋となる人材の育成を目指します。卒業後は、劇場やホール、実演団体の企画制作者、教員、地域の指導者、音楽関連及び一般企業や行政への就職、大学院への進学等、幅広い進路が選択可能です。

■ 教員からのメッセージ 小西 潤子



沖縄で 音楽と文化に 出会って 学ぶ

古琉球時代以来、世界各地から人とモノが集まる文化交流の場・沖縄で、音楽文化専攻は五感で身につけた学力を基に、沖縄県内外の音楽文化振興と社会貢献に寄与する人材を育成します。音楽学コースでは、西洋、日本、アジア・太平洋の「文化としての音楽」を深く理解し、ことばで発信します。沖縄文化コースでは、琉球音楽・芸能の基礎や舞台制作の知識を身につけ、ホール等での実習により実践的にアートマネジメントを学びます。

沖縄文化コース ■ カリキュラム・ポリシー

1年次では、音楽文化に関する基礎知識や研究方法を学びます。学年が進むにつれ、沖縄音楽・芸能、舞台企画・制作についての専門的な講義、演習、また音楽関連施設等での実習を通してアートマネジメントの知識や経験を蓄積し、4年次には卒業制作または卒業論文を作成します。

音楽学コース ■ カリキュラム・ポリシー

1年次では、音楽文化に関する基礎知識や研究方法を学びます。学年が進むにつれ、資料批判や音楽理論、フィールドワークなどの専門的な講義、演習、また論文指導などの実習を通して音楽や芸能に関する知識や経験を蓄積し、4年次には卒業論文を作成します。



民族楽器の演奏体験



文献研究



宮沢和史講師の授業



校内ホール「奏楽堂」の見学

■ 音楽文化専攻の必修科目

● 音楽文化入門 ● 琉球音楽論 ● 民族音楽学 ● 西洋音楽史 ● 舞台制作演習

吉田 夏鈴
(よしだ かりん)



(沖縄県出身)
 音楽文化専攻・沖縄文化コース
 2018年4月 沖縄文化コース入学
 2020年10月現在 沖縄文化コース3年生

私が所属する沖縄文化コースでは、アートマネジメントについて学ぶことはもちろん、その他にも沖縄の文化や音楽と社会の関わりについて学んでいます。私は、高校の頃から企画や制作に興味を持ち始め、「舞台制作演習」という授業を通して、企画や制作について専門の先生方から学んでいる所です。企画や制作が初めての方でも、専門の先生方から1から教えてくださるので、とても楽しく学ぶことができます。

また、音楽文化専攻の先生方は、多種多様な音楽について研究しておられるので、幅広い知識を得ることができます。人数も少人数の為、私達が学びたいことについて丁寧に教えてくれるのも県営の魅力の1つであると感じています。

「沖縄の文化や音楽について学びたい」、「舞台制作や企画をしたい」と思う方はぜひ沖縄文化と一緒に学んでみませんか。

山本 佳穂
(やまもと かほ)



(神奈川県出身)
 2020年10月現在 音楽芸術研究科音楽学専攻音楽学専修

東京藝術大学楽理科在学中、偶然訪れた芸大祭で歌三線に出会いました。それがきっかけで卒業論文では歌三線を題材にし、その後も歌三線の研究を続けるため沖縄県立芸術大学に進学しました。県営の魅力は、なんといっても沖縄を中心とした東アジアの音楽に関する授業が充実していることだと思います。また、日本でも唯一の沖縄芸能に特化した授業では、他では決して得ることができない知識や視点、そして友人や恩師との出会いがあります。これを書いている時点では残念ながらまだ校舎で授業を受けることは叶っていませんが、オンライン授業の際も授業の進捗や内容から日常生活まで細やかに気遣ってくださる先生方に恵まれ、充実した毎日を送っています。琉球芸能が育まれた沖縄の空気を肌で感じながら、充実した研究ができればと思っています。

琉球芸能専攻

世界でただ一つ、 本学だけの教育研究分野



<http://www.okigei.ac.jp/details/music/ryukyu.html>

●琉球古典音楽コース ●琉球舞踊組踊コース

沖縄の伝統音楽・芸能を教育研究の対象とした琉球芸能専攻は、琉球古典音楽コースと琉球舞踊組踊コースがあります。専門実技の研究だけでなく理論的な研究も行い、実習・実演を行っています。習得した技能は、琉球芸能定期公演や学内演奏会、学外での出演など様々な場所で発揮することができます。学生たちは4年間の学生生活を経て、更なる研究のため大学院へ進学する者、プロとして実演家になる者、中学・高校の教員、一般企業に勤めるなど様々な分野で活躍しています。



定期公演 組踊「二童敵討」より



学内演奏会 舞踊「久志の若按司道行口説」 定期公演 舞踊地謡



学内演奏会 創作舞踊「渡んじゃー舟」



定期公演 舞踊「思唄」

琉球古典音楽コース

■ アドミッション・ポリシー

沖縄の伝統音楽に興味があり、その音楽の実技と理論を探究したいという情熱と意欲を持つ人材を求めています。

専任教員 琉球古典音楽コース

- 仲嶺 伸吾 教授(琉球古典音楽安福祖流)
- 山内 昌也 教授(琉球古典音楽野村流・湛水流)
- 新垣 俊道 准教授(琉球古典音楽野村流・湛水流)
- 嘉数 幸雅 助手(琉球古典音楽)

琉球舞踊組踊コース

■ アドミッション・ポリシー

沖縄の伝統芸能に興味があり、琉球舞踊と組踊の実技と理論を探究し、琉球芸能に於ける視野を広げ、表現力を深めたいという情熱と意欲を持つ人材を求めています。

専任教員 琉球舞踊組踊コース

- 高嶺 久枝 教授(琉球舞踊・組踊)
- 比嘉 いずみ 准教授(琉球舞踊)
- 阿嘉 修 准教授(組踊)

琉球古典音楽コース ■ カリキュラム・ポリシー

琉球古典音楽実技、地謡実技などの授業を通して専門実技を学びます。4年間で琉球古典音楽独唱、琉球舞踊や組踊地謡など幅広い技能を身につけ、琉球古典音楽の真髄に迫ります。併せて実技や理論、歴史を含めた日本・東洋・西洋音楽の技能や知識も修得し、格式高い琉球古典音楽を発信できる人材を育成します。

■ 琉球古典音楽コースの必修科目

- 琉球古典音楽実技
- 地謡実技
- 関連琉舞組踊実技
- 詞章研究
- 琉球芸能史
- ソルフェージュ
- 副科声乐
- 総合実習
- 琉球楽器実技
- 琉球音楽論
- 日本・東洋音楽史
- 琉球語
- 副科ピアノ
- 西洋音楽理論

■ 主な選択科目

- 和楽器実技
- 音楽創作演習
- 学外研究



琉球古典音楽コース授業風景(歌三線)



琉球古典音楽コース授業風景(太鼓)

琉球舞踊組踊コース ■ カリキュラム・ポリシー

琉球舞踊と組踊を実技と理論から段階的および専門的に学びます。比較舞踊実技(能・日本舞踊・八重山舞踊・バリ舞踊)、空手、古武道実技などの関連科目や楽劇鑑賞、フィールドワークなどによって幅広く琉球芸能を学びつつ、格式高い琉球芸能を発信できる人材を育成します。

■ 琉球舞踊組踊コースの必修科目

- 琉球舞踊実技
- 総合実習
- 地謡実技
- 琉球芸能論
- 日本・東洋音楽史
- 琉球語
- 副科ピアノ
- 西洋音楽理論
- 組踊実技
- 扮装実習
- 琉球音楽論
- 詞章研究
- 琉球芸能史
- ソルフェージュ
- 副科声乐

■ 主な選択科目

- 舞踊創作演習
- 比較舞踊実技
- 空手・古武道実技
- 舞踊基礎演習
- 舞踊理論
- 楽劇理論
- 学外研究



琉球舞踊組踊コース授業風景(舞踊)



琉球舞踊組踊コース授業風景(組踊)

■ 教員からのメッセージ 山内 昌也



「瞬間芸術表現の喜び」

琉球芸能は、琉球王国時代首里城から誕生した琉球伝統芸能(宮廷芸能)と、廃藩置県以降庶民の生活に根差してした大衆芸能など様々なジャンルなものが受け継がれています。

「うとういむち」(おもてなし)の精神による琉球芸能は、古(いにしえ)の先人たちが創り上げた大切な文化・芸術です。本学で「瞬間芸術表現の喜び」を共に感じてみませんか。

仲村 里央

(なむら りお)
(沖縄県出身)
2020年10月現在 琉球舞踊組踊コース4年生



幼少時から琉球舞踊が好きで、中学時代にはすでに芸大を意識していました。そのため高校への進学も沖縄県立南風原高等学校郷土文化コースへ進学しました。

そして、芸大に進学して、芸術というカテゴリーで同じ目的を志す学友がいることは、とても刺激的です。大学では、琉球舞踊組踊実技だけでなく、詞章研究や副科実技など、音楽技術や理論的な知識など様々なことが学べます。また、選択科目で印象に残っている科目は学外研究です。東京で様々な伝統芸能を鑑賞しましたが、能や歌舞伎を鑑賞した際、改めて琉球芸能とは何なのかを考えさせられました。

また、学内だけの出演だけでなく、学外での公演も数多くあります。特に首里城中秋の宴などに出演できたことは、今でも心に残っています。芸大でしか体感できないこと、多くみなさまに知ってほしいと思います。



奏楽堂

奏楽堂は、390席を有するホールを中心として、講義室、合奏室等を備えており、入学式や卒業式等の式典行事の他、音楽実技の総合的実習や美術工芸学部における映像を利用した教育研究成果の発表など、学生が充実して実践を行えるカリキュラム提供の場です。

外観は、屋根を可能な限り小ブロックに分けることによって、大きな単一面を避け、視覚的にも建物を大きく見せない工夫がなされています。ホール内部は、コンサートを主目的としながらも伝統芸能における舞台制作も行えるようそれぞれの使用目的に対応しています。舞台の開口部の必要な高さを一定の範囲で調整可能な方式とし、同様に残響においても、壁面の残響可変装置により目的にあわせて残響を1.4~1.8秒に調整することができます。また講義室や合奏室等もそれぞれ遮音構造となっており、レッスンや講義に適した施設です。

自己を見つめ技術を越えて
新たな表現を切り拓く場。



奏楽堂外観



ホール客席



車椅子専用スペース

定期公演

定期公演 令和2年度

第31回 琉球芸能定期公演 令和2年10月10日(土) 奏楽堂

第31回 洋楽定期公演 令和2年10月18日(日) 奏楽堂

毎年開催されている音楽学部の定期公演です。令和2年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、学内関係者のみの入場となりました。琉球芸能定期公演では、独唱や箏曲合奏、組踊(抜粋)など多彩な演目が披露され、学生の熱演が光りました。弦楽コースの企画による洋楽定期公演は、ロマン派から近現代までの作品を取り上げた意欲的な構成で、会場は弦楽合奏の重厚な響きに包まれました。



音楽学部の地域貢献

ぬちぬぐすーじさびらコンサートin摩文仁 第4回モーツァルトレクイエムコンサート

日時:2019年6月16日

場所:沖縄平和祈念堂(糸満市)

概要:音楽学部では、戦没者への慰霊と恒久平和への願いを込めて、2016年より毎年6月に糸満市摩文仁の平和祈念堂にてコンサートを開催し、これまでモーツァルト作曲「レクイエム」の演奏してまいりました。令和2年度の演奏会は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、中止となりましたが、今年度はコンサートの名称を「ぬちぬぐすーじさびらコンサートin摩文仁」と変更し、オーケストラを中心としたプログラムで開催を予定しております。



那覇市立小祿南小学校 校内音楽鑑賞会2020

期間:2020年12月3日

場所:那覇市立小祿南小学校

概要:那覇市立小祿南小学校からの依頼により、弦楽コース及び琉球芸能専攻による音楽鑑賞会を実施しました。

学生と教員からなる弦楽四重奏により、クラシックの名曲をはじめ、映画音楽などなじみのある作品の演奏や楽器紹介なども交えた内容で、同校児童・生徒を対象とした3ステージ(1-2年、3-4年、5-6年)で演奏を行いました。



『首里城公園“新春の宴”琉球芸能の宴』

期間:2021年1月2日

場所:首里城公園 下之御庭

主催:(一財)沖縄美ら島財団

概要:本学は、一般財団法人沖縄美ら島財団との包括的連携を結んでいます。両者の持つ知的・物的資源を活用し、活力ある個性豊かな地域社会の形成を発展に寄与するため、様々は事業を展開しております。

『首里城公園“新春の宴”琉球芸能の宴』も琉球芸能専攻の学生たちにとって貴重な経験となっております。琉球伝統芸能において首里城はまさしく「聖地」であり、首里城正殿を始めとする建物等の復元を願い、上演いたしました。



全学教育センター

本学の教養教育と資格課程教育は「全学教育センター」が運営しています。全学教育センターは、美術工芸学部・音楽学部・附属研究所の教員によって構成され、学部の垣根を越えた全学教育を推進します。



全学教育科目

本学における全学教育科目は、将来、専門教育の成果を社会で十分に活かせるよう、社会性と豊かな人間性を兼ね備えた、文化的素養と国際感覚のある人材の育成を目指します。全学教育科目は、以下の6つの区分から成っています。

全学教育科目					
初年次科目	初年次セミナー				
日本語	言語表現法				
	情報	コンピュータ情報論			
リテラシー科目	外国語	英語Ⅰ・Ⅱ 英語講読A・B 英文法 英作文 英語特演Ⅰ・Ⅱ 独語Ⅰ～Ⅳ 独語特演A・B 仏語Ⅰ～Ⅳ 仏語特演A・B 伊語Ⅰ～Ⅳ 伊語特演A・B 中国語Ⅰ～Ⅳ 中国語特演A・B 日本語初級Ⅰ・Ⅱ 日本語中級Ⅰ・Ⅱ 日本語上級Ⅰ・Ⅱ 日本語特演			
		人文学系	哲学A・B 宗教学 言語学A・B 文学概論 中国文学 日本文学		
			社会科学系	考古学 歴史学A・B 日本国憲法 文化人類学 心理学 障害福祉概論	
				自然科学系	数学 化学 生物多様性学 基礎生物学 生命科学 自然科学概論 物理学
					芸術教養科目
	関する科目				
		健康・運動科目			

【初年次科目】

初年次科目は、全ての新生入生を対象（必修）とし、高校から大学への移行を円滑に促すため、大学における学修や生活に必要な技能や知識、態度や心構えを身につける目的で開設されます。

【リテラシー科目】

リテラシー科目は、言語コミュニケーション能力や情報コミュニケーション能力の養成を目的として開設され、学修活動の基礎となる自己表現力を磨く科目です。



【一般教養科目】

一般教養科目は、人文学系、社会科学系、自然科学系の3分野で構成されており、教養の基礎を学ぶための科目が広く置かれています。



全学教育センターの地域貢献「おきげい教養講座」

本学において教養教育や資格課程を担当する教員が、日頃の教育・研究を広く公開することを目的として、2016年度より開講しています。2016～2020年度に23回の講座を実施しました。

- (2020年度開設講座例)
- 「近世琉球の職人と王府」麻生伸一(琉球史)
- 「ヤシガニと沖縄の人々の暮らし」藤田喜久(海洋生物学/海洋環境学)
- 「琉球王国時代の那覇と福州を結ぶ海路を探る—台湾・馬祖列島の考古学調査から—」森達也(中国陶磁考古学/陶磁史/東西交流史)

【芸術教養科目】

芸術教養科目は、広範な芸術に関する教養を身につけるために開設され、専門以外の芸術諸領域についても学べるようになっていきます。



【沖縄の文化に関する科目】

沖縄の文化に関する科目は、沖縄文化に関する広範な教養を身につけるために開設し、沖縄の歴史、文化、芸術などの諸領域について深く学べるようになっています。



【健康・運動科目】

健康・運動科目は、理論と実技を通して健康に関する正しい知識と態度を身につけ、生涯にわたって健康で豊かな生活をつくり上げていくための基本的な姿勢を培うことを目的としています。



資格課程

【教職課程】

本学教職課程では、①地域の独自性と得意分野を持つ教員、②国語力・書く力を持つ教員、③語学力を持つ教員、④教育相談能力を持つ教員の4つの力を持つようなバランスのとれた教員の育成を目指しています。

本学で取得できる教員免許状は、まず、美術工芸学部では中学校教諭1種免許状(美術)、高等学校教諭1種免許状(美術)です。また、工芸専攻では前記の二つの免許状に加え高等学校1種免許状(工芸)を取得できます。次に、音楽学部では中学校教諭1種免許状(音楽)、高等学校教諭1種免許状(音楽)を取得することができます。さらに、大学院では、中学校教諭専修免許状(美術、音楽)、高等学校教諭専修免許状(美術、工芸、音楽)を取得することができます※1。中学校教諭免許状を取得すれば小学校の「図画工作」、「音楽」の専科教員になることもできます。現在、本学にて教員免許を取得した多くの卒業生が、本務あるいは非常勤の教員として活躍しています。

教員免許状の授与に至るまでには、卒業に必要とされる科目の他に「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」等の科目を履修しなければなりません。

さらに、中学校の教員免許状を取得するには、「介護等体験」を7日間(社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間)行わなければなりません。本来、教職は専門性の極めて高い職業です。幅広い教養と教員としての資質や適性はもとより、教育に関する理念、児童・生徒の成長・発達についての理解、教科に関する深い専門知識と豊かな指導力が求められます。また、実

【博物館学課程】

博物館において、資料の収集・保管・展示・教育普及など専門的な仕事を司る職員を「学芸員」といいます。博物館学課程は、この「学芸員」となる資格を取得するための課程です。本学では、芸術大学である特性を踏まえ、美術または音楽を専門とする学芸員を育てるカリキュラムを設けています。

今日の博物館は多様化し、実にさまざまな役割を担っています。卒業生は、沖縄県内外の博物館や美術館に学芸員として就職し、芸術と社会の架け橋となって活躍しています。



博物館実習風景

教育職員免許状取得希望者は、本学を卒業するために必要な単位を修得し、かつ免許教科の種類に応じ、所定の単位を履修すれば美術、工芸、音楽などの教育職員免許状を取得できます。また、同様に博物館学課程の所定の単位を履修すれば、博物館学芸員の資格を取得することができます。

際に教員になるためには、公立学校の場合、厳しい教員採用試験に合格しなければなりません。そのため、教職課程を履修するには、堅実な動機と周到な履修計画が望まれます。

※1 専攻によって取得できる免許種が異なります。

1. 教育の基礎的理解に関する科目等

教職に関する科目については、免許状の種類及び免許教科に応じ、次の通り履修しなければなりません。

授業科目	履修単位の規定による
教育原理 教育行政 教育心理学 特別支援教育 道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法 生徒・進路指導論 学校カウンセリング 教育実習(長期) 教育実習(短期) 教職実践演習(中・高)	履修単位の規定による



美術科教育法Ⅱ



美術科教育法Ⅱ

博物館学課程の授業科目及び履修単位

1 指定教育科目 (19 単位)
生涯学習概論 博物館概論 博物館経営論 博物館資料論 博物館資料保存論 博物館展示論 博物館情報・メディア論 博物館教育論 博物館実習
2 関連教育科目
前記1の指定教育科目に加え、各学部が所属学生へ提供する関連教育科目16単位を履修する必要があります。詳細は「履修案内」を参照すること



博物館実習風景

2. 教科及び教科の指導法に関する科目

教科及び教科の指導法に関する科目については、免許状の種類及び免許教科に応じ、次のとおり履修しなければなりません。

の免許状の種類	教科及び教科の指導法に関する科目	履修単位の規定による
中学校教諭1種免許状	美術 絵画(映像メディア表現を含む)・彫刻 デザイン(映像メディア表現を含む)・工芸 美術理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む)・各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	履修単位の規定による
高等学校教諭1種免許状	美術 絵画(映像メディア表現を含む)・彫刻 デザイン(映像メディア表現を含む)・美術理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む)・各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	履修単位の規定による
工芸	図法及び製図 デザイン 工芸制作(プロダクト制作を含む)・工芸理論、デザイン理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む)・各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	履修単位の規定による

(音楽学部)

の免許状の種類	教科及び教科の指導法に関する科目	履修単位の規定による
中学校教諭1種免許状	音楽 ソルフェージュ 声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む)・器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む)・指揮法 音楽理論・作曲法(編曲法を含む)・音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)・各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	履修単位の規定による
高等学校教諭1種免許状	音楽 ソルフェージュ 声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む)・器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む)・指揮法 音楽理論・作曲法(編曲法を含む)・音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)・各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	履修単位の規定による

専任教員 | 全学教育科目担当

- 波平 一郎 教授(日本文学)
- 高良 則子 教授(英語学/言語学/英語教育)
- 張本 文昭 教授(野外教育/身体教育学)
- 藤田 喜久 教授(海洋生物学)
- 麻生 伸一 准教授(歴史学/琉球史)

専任教員 | 資格課程担当[教職課程]

- 芳澤 拓也 教授(教育学)
- 城間 祥子 准教授(教育心理学)

専任教員 | 資格課程担当[博物館学課程]

- 森 達也 教授(博物館学/中国陶磁考古学/陶磁史/東西交流史)



http://www.okigei.ac.jp/details/graduate/formative-arts.html

【教育研究上の目的】

造形芸術研究科は、造形芸術分野における深い学識の涵養及び専門的な能力の教授研究により、社会における芸術活動に貢献し得る卓越した人材を育成し、もって造形芸術の発展に寄与することを目的とする。(大学院学則第5条の1号)

■ 教育理念・目標

造形芸術研究科は、造形芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴やそれらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性の見地から、ひろく東西の美意識に関する哲学的・美学的・文化的反省に立つ芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化の多様な実態と伝統芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追究する比較芸術学・民族芸術文化学の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。

これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性をもち、創造力豊かで、将来の社会における造形芸術分野の幅広い実践活動を担う作家や研究者、芸術教育の専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

■ ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

本研究科の教育理念・目的に沿った教育課程で成果をあげ、修士作品もしくは修士論文の審査および試験に合格し、所定の単位を取得した学生には修士(芸術)の学位が授与されます。学生が在学中に到達する目標は以下のとおりです。

- 1 より幅広い視野から芸術を理解する学識を身につける。
- 2 より高い専門分野における研究能力を身につける。
- 3 専門分野における知識・技術を応用し、幅広い分野で活躍し、社会に発信する力を身につける。

■ カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

造形芸術研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、以下を目的としたカリキュラムを編成します。

- 1 学部における教養教育と専門的素養の基礎の上にたつた、さらに幅広い深い技術及び学識を涵養する。
- 2 造形芸術についての高度な技術及び知識の育成のために、自律的に研究を進める能力を養う。
- 3 専門知識や技術を社会で活用し、新たな芸術創造の可能性を広げる応用能力を培う。

■ アドミッション・ポリシー (入学受入れの方針)

本研究科の教育理念に基づき、次のような点を入学受入れの判定の主眼としています。

- 1 幅広い教養と造形芸術分野の専門的素養を備えているか。
- 2 専門分野の研究を行うのに必要な基礎的能力を備えているか。
- 3 現代社会において新しい芸術創造の営みを発信していく強い目的意識、意欲を備えているか。

● 生活造形専攻

工芸専修

染研究室では、古典紅型を調査研究し、筒引き・型染の表現における形態を学びます。顔料彩色と藍染の表現の違いを学ぶ事で適正材料の知識を得ます。それを基に自己の防染法の表現方法を広げ、現代に即応した創作活動、理論的な研究制作を目標とします。

織研究室では、沖縄の染織技法、その他綴れ等の技法を活用した制作、琉球藍などの天然染料や素材の調査研究を行います。また、沖縄を含め日本・アジアの染織に関する調査・研究を行い、伝統的な技術の伝承や創作性への展開にも取り組みます。

陶磁器研究室では、器物作品制作と造形作品制作に分かれ、それぞれの専門的実技と理論を習得します。教育内容としては、1年次には素地土の調整と釉薬原料の研究など成形技術と比較焼成(黒陶・野焼)を含む実習を主眼とし、2年次ではより高度な焼成技術と加飾技法を課題として研究制作を行います。

漆工研究室では、学部での教育課程を土台とし、各自の研究テーマを中心に高度で実践的な研究を行うと共に、琉球漆芸を含む日本漆芸全体の伝統技法の研究もより深く継続していきます。時代や社会をより意識し、独創的な表現を探索しながら、現代社会に貢献できる人材の育成を目標とします。

デザイン専修

デザイン専修は、視覚伝達デザイン研究室と生活環境デザイン研究室から成ります。

視覚伝達デザイン研究室では、グラフィックデザイン、映像デザイン及び空間演出における視覚的な表現などを研究領域とし、制作を通じてビジュアルコミュニケーションデザインの在り方を追求します。

生活環境デザイン研究室では、公共空間のスペースデザイン、居住空間、家具等のデザインや地域性を勘案した製品デザイン等の造形を研究領域とし、論理的なデザインプロセスの構築手法から実践的でより高度な造形表現を追求します。

● 環境造形専攻

絵画専修

絵画専修では、学部での教育課程の学修成果を踏まえ、自己の創出する研究テーマに基づき、より高度で実践的な研究を行い、将来にわたって専門家として主体的に課題テーマを探索し、独創的な美術表現や創作活動、美的価値を創出する研究能力の育成を目指します。

油画研究室においては、油画、版表現、平面表現、さらに映像表現、インスタレーションを研究領域とし、日本画研究室においては、伝統的な材料技法に基づく古典から現代を通じた高度な修練を現代における自己の表現として確立をめざします。

彫刻専修

彫刻専修では、学部の教育課程において培った教養と彫刻分野の専門的素養の上に立ち、それぞれの領域における学生の研究テーマに基づき、より高度で実践的な研究を行います。その上で、将来にわたって作家などの専門家として自ら主体的に課題を創出し、独創的な表現方法の探求を継続していくための研究能力の育成を目指します。また、今日の多様な表現領域の中で、特殊な材料・造形技法の分野についても高度な内容の充実を図り、それらを積極的に応用していく能力を養います。

● 比較芸術学専攻

比較芸術学専修

比較芸術学専修では、日本、琉球、東洋及び西洋の芸術学・美術史の比較研究を基盤として、古典から現代にわたる歴史的な視点にたち、あわせて国際的にも地域社会に対しても広い視野をもって美術を理論的に把握し、現代の芸術にも建設的な批判精神を養うことを目的としています。

また、沖縄の地域文化の特性と伝統は、日本のみならずアジア各地域の文化と比較しても極めて豊かな内容をもっています。その固有の風土によって培われた芸術文化を民族文化学、アジア工芸史、比較文化学、琉球文学及び日本文学の立場から研究することを目的としています。



工芸専修



デザイン専修



絵画専修



彫刻専修



比較芸術学専修



http://www.okigei.ac.jp/details/graduate/music-arts.html

【教育研究上の目的】

音楽芸術研究科は、音楽芸術分野における深い学識と専門的な研究能力を培い、社会において高度に専門的な職業を担うことのできる人材を育成し、もって音楽芸術の発展に寄与することを目的とする。(大学院学則第5条の2号)

■ 教育理念

音楽芸術研究科は、音楽芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴やそれらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性見地から、ひろく東西の美意識に関する哲学的・美学的・文化的反省に立つ芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化多様な実態と伝統芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追求する音楽構造学および民族音楽等の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性を持ち、想像力豊かで、将来の社会における音楽芸術分野の幅広い実践活動を担う演奏家や研究者、芸術教育の場における専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

■ ディプロマ・ポリシー (修了認定・学位授与の方針)

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科では、教育の理念に沿った高度な専門教育において成果をあげ、修士演奏、修士作品又は修士論文の提出を経て、所定の修了単位を取得した学生に対し、修士(芸術)の学位を授与します。その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

- 1 専門分野における高度な技術力を身につけている。
- 2 研究分野における高度な研究能力と論理的思考力を身につけている。
- 3 研究分野における知識、技術を言語化、理論化し、社会に発信する能力を身につけている。

■ カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

音楽芸術研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、講義、演習、実技を組み合わせた授業科目を開講し、修士演奏・作品(副論文含む)並びに修士論文作成のための研究指導を行います。教育課程については、履修表及びカリキュラムマップにより、体系的や各科目間の関係性を示します。

- 1 研究計画に基づいた研究指導により、専門分野における精緻な技術を身につけます。また、関連科目の履修によって広い視野に立った学識を涵養します。
- 2 課題探求や洞察に必要な、論理的思考力やコミュニケーションスキル、情報リテラシーなど、研究に必要な基礎的素養を養います。
- 3 各専攻分野で獲得した能力を応用し、高度の専門性が求められる各分野の職業を担い得る卓越した能力を培います。

■ アドミッション・ポリシー (入学受入れの方針)

音楽芸術研究科は、音楽芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴やそれらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性見地から、ひろく東西の美意識に関する哲学的・美学的・文化的反省に立つ芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化の多様な実態と伝統芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追求する音楽構造学および民族音楽等の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性を持ち、想像力豊かで、将来の社会における音楽芸術分野の幅広い実践活動を担う演奏家や研究者、芸術教育の場における専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

本研究科の教育理念に基づき、次のような点を入学受入れの判定の主眼としています。

- 1 幅広い教養と音楽芸術分野の専門的素養を備えているか。
- 2 専門分野の研究を行うのに必要な基礎的能力を備えているか。
- 3 現代社会において新しい芸術創造の営みを発信していく強い目的意識、意欲を備えているか。

● 舞台芸術専攻

琉球古典音楽専修

琉球古典音楽専修では、琉球古典音楽独唱、琉球舞踊組踊地謡を独演できる技量が求められます。

琉球古典音楽研究では、大昔節(茶屋節・昔蝶節・十七八節・長ぢゃん節・仲節)の演奏表現を研究します。それらを最終的には修士演奏で発表します。また演奏技術修得だけでなく理論的にも追求し、副論文の作成にも取り組みます。



修士演奏

琉球舞踊組踊専修

琉球舞踊組踊専修では、代表的な古典舞踊や雑踊、又は組踊の基本的な役柄の演技と唱えを修得していることが求められます。

琉球舞踊組踊研究(舞踊)では、琉球舞踊に関連する身体表現を研究し、琉球舞踊組踊研究(組踊)では、諸様式・役柄の心情表現等を研究します。また、舞踊論研究、琉球楽劇論研究などの理論研究を通して古典芸能の理解を深め、創作能力を身につけます。修士演奏では、古典又は創作などが課せられ、いずれも内容に即した副論文の作成にも取り組みます。

● 演奏芸術専攻

声楽専修

声楽専修では、学部で学んだ基礎を活用しながら、より高度な研究を行い、舞台上で活躍できる人材を育てることを目的としています。カリキュラムを通じ、幅広い学識を深め、自分の声と表現の特質を把握し、レパートリーの確立を目指します。将来、コンサート歌手としてリサイタルを開催するために必要な演奏技術と音楽表現を学び、またオペラ歌手として一つの役を歌い演ずる歌唱技術と演技力を身につけます。さらに、協奏曲研究にてオーケストラと共演する機会も与えられます。

ピアノ専修

ピアノ専修では、より高い次元での演奏を目指して、幅広い視野に立ち自身の研究を追究してゆこうとする人材を求めています。ピアノ研究ではリサイタルを1回以上開催できるレパートリーの拡充を目標とし、協奏曲研究では本学のオーケストラとの共演により、より大きなスケールでの演奏表現を体得し実践します。



協奏曲研究

管弦打楽専修

管弦打楽専修では、学士課程において培った専門実技の技術をさらに高め、研鑽を重ねようとする強い意志を持った人材を求めています。管弦打楽研究の個人指導を中心に、オーケストラ、室内楽等、器楽奏者として必要な分野を深く研究します。協奏曲研究ではソリストとして大学のオーケストラと共演します。



協奏曲研究

● 音楽学専攻

音楽学専修

音楽学専修では、音楽や舞踊の学問的研究を通して、社会に資する人材の養成を目的とします。音楽史・民族音楽学・舞踊芸能論の三つの研究領域があり、沖縄をはじめ、世界各地の音楽を対象とします。専門の研究領域だけでなく、隣接する研究領域の知識を身につけ、新たな知見と研究方法を確立し、修士論文を提出します。

作曲専修

作曲専修では、学部で培った作曲の基礎的な力を元に研鑽を重ね、独自の創作表現へと広げ高めていく意欲が求められます。作曲演習では、作品分析・研究を通して視野を広げ、作曲実習における実作能力の習熟成果として修士作品を制作し、副論文を提出します。各年次には、提出作品を実音にする試演の機会が与えられます。

芸術文化学研究所 後期博士課程



<http://www.okigei.ac.jp/details/graduate/phd.html>

【教育研究上の目的】

芸術文化学研究所は、実技との結びつきを重視した芸術文化に関する高度な理論と応用の教授研究により、芸術文化についての豊かな識見及び自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を有する研究者を養成し、もって芸術文化の発展に寄与することを目的とする。(大学院学則第5条の3号)

■ 教育理念・目標

芸術文化学研究所は、本学大学院の後期博士課程です。

本学大学院は、建学の理念に基づき、伝統芸術・民族芸術の汎アジア的基盤での育成・研究をはかり、美術・音楽・芸能等諸芸術文化の国際的な比較研究の場を展開して、高度な専門知識と能力を有する指導者を育成すると同時に、とりわけ東アジア・東南アジアを結ぶ東アジア太平洋文化圏の伝統芸術の継承と新たな芸術の創造に資する国際的視野での総合的な芸術文化研究機関です。

■ ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

芸術文化学研究所では、研究指導を受け所定の単位を修得し、博士論文等の審査及び試験に合格した学生には、博士課程の修了を認定し、博士(芸術学)の学位を授与します。

比較芸術学研究領域・民族音楽学研究領域における博士論文、芸術表現研究領域における博士論文及び研究作品・研究演奏は、1)その専門分野において高度な研究内容であること、2)創造的、独創的な研究であること、3)その研究が国際的にも貢献できること等の観点から審査します。

■ カリキュラム・ポリシー

(教育課程編成・実施の方針)

芸術文化学研究所のカリキュラムは、芸術文化についての幅広い見識と、自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を養うような教育を行います。博士(芸術学)の学位を取得できるよう、博士論文等の完成を目標とした研究指導を中心に据え、実技と理論との結びつきを重視した本学ならではの科目である芸術表現総合比較研究Ⅰを必修とし、その他複数の領域の科目を自由に選択するように授業科目を編成しています。

■ アドミッション・ポリシー

(入学者受入れの方針)

1 教育理念

本学の基本的な理念は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追求することにあります。これに基づき、芸術文化学研究所は、実技との結びつきを重視した芸術文化に関する高度な理論と応用の教授研究により、芸術文化についての豊かな識見及び自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を有する研究者を養成し、もって芸術文化の発展に寄与することを目的としています。

2 本研究科の求める人材

芸術に関する基礎的な知識を備え、自立した研究者となるための意欲と能力と展望を備えていることを求めます。

3 入学者選抜の実施

2に掲げる人材を受け入れるため、専門的な学力試験、研究課題に関する口述試験を実施しています。

● 専攻案内

本学大学院の芸術文化学研究所(後期博士課程)芸術文化学専攻には、比較芸術学と民族音楽学、芸術表現の三つの研究領域が設定されており、それぞれの領域において専門の研究分野が設置されています。

学生はいずれかの研究分野に属して研究指導を受け、必修科目「芸術表現総合比較研究Ⅰ」(2単位)及び選択科目を2科目(8単位)以上履修し、博士論文等(博士論文、研究作品又は研究演奏)の審査に合格すれば修了することになります。

● 比較芸術学研究領域

○比較美術学・芸術学の分野では、従来における西洋美術学への偏重を反省しつつ、多様な美意識を体系的な見地から比較研究することによって、それぞれの特質および形成原理を解明することを主要な課題としています。とりわけ、芸術体験の価値構造の分析から導かれる諸契機により、東西の美意識を比較類型学的に解明することが目指されます。

○芸術批評史の分野においては、作家による作品の歴史という従来ありがちな美術史学の方法の限界を反省しつつ、美術作品を生み出してきた思想的、歴史的な背景を厳密な史料の把握を通じて、いわば精神史としての美術史を人文科学の諸方法を用いて構築することが目指されます。

○民族芸術文化学の分野では、諸民族における芸術と文化の役割について可能な限り実際のフィールドワークや実物資料、原資料に即して実証的研究を行います。例えば諸民族の工芸美術の比較研究、文学の比較研究、琉球の伝統芸能・伝統文化の研究、琉球史と世界各地の歴史との比較研究などを美術史学、歴史学、考古学、文学、文化人類学の諸方法を援用しつつ研究していきます。



● 民族音楽学研究領域

○音楽史の分野では、琉球、日本、東洋及び西洋の音楽について歴史的研究を行います。古文書古楽譜の分析解釈に加えて、今日まで伝承されている音楽を対象とする場合は、その音楽の実践に即した研究方法を探究します。

○民族音楽学の分野では、主に対象の中心を琉球の古典音楽に置き、琉球独自の言語表現による文学とも関わり、その音楽的構造や形態との関連を研究します。あわせて琉球音楽の歴史的形形成に寄与した東南アジア諸国の諸民族の音楽を民族音楽学の視点から研究します。

○民族芸能論の分野では、音楽を主体とする諸民族の芸能を音楽学また文化人類学の視点から学際的に研究する分野です。沖縄の伝統的な組踊や琉球舞踊・民俗芸能を中心に、アジアの舞踊・演劇を広く研究対象とします。

● 芸術表現研究領域

○造形芸術の分野では、芸術家、研究者、教育者などとして自立した活動が行えるよう、より高度な作品制作能力を培い、それを理論的に支える研究の方法を学びます。また、人間の知的文化的活動の一つとしての造形芸術の意味と役割について、作品制作と研究を通して伝える能力を身につけます。



○音楽芸術の分野では、芸術家、研究者、教育者などとして自立した活動が行えるよう、より高度な舞台表現・作品制作能力を培い、それを理論的に支える研究の方法を学びます。また、社会・環境に根ざした表現活動としての音楽芸術の意味と役割について、舞台表現・作品制作と研究の両面から伝える能力を身につけます。

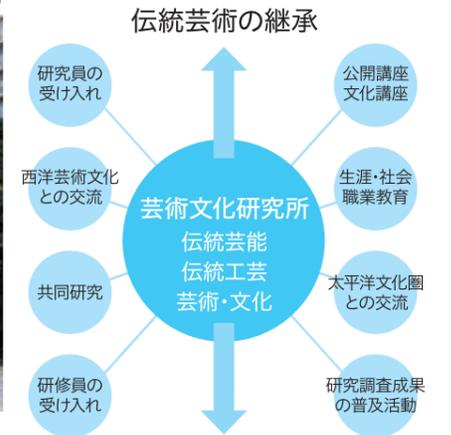


芸術文化研究所 (旧附属研究所)



【芸術文化研究所設置の理念】

開かれた大学を目指して



地域個性の美と人類普遍の美の追究



芸術文化研究所は建学の理念等に基づき、地域社会との関連に重点を置いた調査研究活動のほか、一般県民を対象とした講座や移動大学といった地域貢献活動を行っています。講座は学生も受講可能で、沖縄学の講座では単位の取得もできます。

● 芸術文化研究所の目的

伝統芸術の特色の解明や一般県民への研究成果の普及啓発を通じて、後継者育成を図り、伝統文化の創造と発展に寄与すること

● 実施事業

地域の伝統芸術およびその関連分野の調査・研究／伝統芸術の後継者の育成指導に関する技法的研究・調査／文献および資料の収集・活用／研究成果の発表・公開講座の開催／研究会活動／国際交流／その他研究所が必要と認めた事項

専任教員 | 芸術文化研究所

久万田 晋 所長・教授 (伝統芸能部門)
鈴木 耕太 准教授 (芸術文化学部門)
新田 榎子 講師 (伝統工芸部門)



移動大学 in 伊平屋 (オンライン開催)「彫刻教室」



文化講座 (オンデマンド開催)「首里城と琉球・沖縄文化」

1 Pick UP! 移動大学は、小中学生を主な対象として離島地域で開催する事業で、県の離島地域振興計画に位置づけられています。美術工芸、音楽、空手、沖縄文化といった各種プログラムを体験講座として実施しているほか、琉球芸能等の公演、地域との交流があり、スタッフとして毎年教員だけでなく学生も参加しています。令和2年度は伊平屋島と芸大をオンラインでつないで、芸大の教員などによる講座を行いました。

2 Pick UP! しまくとぅば実践教育プログラム開発事業を行っています。

【過去5年間の実施事業一覧】

平成28年度	移動大学 in 粟国島、沖縄学「近代沖縄芸術の展開」、公開講座「織物入門」、文化講座「琉球・沖縄と四季」、「インドネシアのガムラン講座ージャワとバリの2つの島の音楽の実践ー」、「ガムランの生演奏によるバリ舞踊の実演とレクチャーー女性舞踊と男性舞踊を比べるー」、「子どものためのバリ音楽体験講座(小学生～高校生)」、大学コンソーシアム沖縄 県民向け公開講座「最新の紅型紙研究」
平成29年度	移動大学 in 大宜味、沖縄学「琉球・沖縄芸術の構造」、「古文書を読もう」、「ラオスの織物と伝統」、「IIIで拓く、イメージ資料活用の可能性」、「古文書講座(ひらがな)」、「音楽講座ケチャットのワークショップ」、「インドネシアのガムラン講座ーバリとジャワー」、「子どものためのバリ音楽体験講座」、特別講演会「柳悦州教授退任記念講演会」、大学コンソーシアム沖縄 県民向け公開講座「沖縄と映像・映画」
平成30年度	移動大学 in 波照間島、沖縄学「琉球・沖縄の技術史」、文化講座「古文書を読もう」、「バリ島のガムラン音楽」、「子どものためのバリガムラン体験講座」、「ケチャットのワークショップ」、「ジャワ島のガムラン音楽」、「子どものためのジャワガムラン体験講座」
令和元年度	移動大学 in 伊江島、沖縄学「組踊を多角的に考える」、文化講座「琉球藍の建て方、染色法を学ぶ」、「組踊を読む ひらがな講読講座」、「古文書を読もう」、「バリの男性舞踊家 イ・マデ・ステジャ氏特別講座ー男性舞踊の基礎についてー」、「バリ島のガムラン音楽」、「子どものためのバリガムラン体験講座」
令和2年度	移動大学 in 伊平屋島 (オンライン開催)、沖縄学「首里城と琉球・沖縄文化」(オンデマンド開催) 令和2年度の事業や研究所事業の詳細については、ホームページをご覧ください→ http://ken.okigei.ac.jp/

附属図書・芸術資料館



附属図書・芸術資料館 外観

主な施設	
地下2階	収蔵庫(前室含む) 365 m ² 書庫 241 m ²
地下1階	荷解室 29 m ²
地上1階	閲覧室 358 m ²
	簡易書庫 54 m ²
	多目的室 90 m ² ラーニング・commons 31 m ²
地上2階	第1展示室 354 m ²
	第2展示室 139 m ²
	第3展示室 83 m ²
蔵書数(令和2年3月31日現在)	
図書 81,349冊	和書 58,694冊
	洋書 14,544冊
	楽譜 8,111冊
雑誌 1,874冊	和雑誌 1,764誌
	洋雑誌 110誌
視聴覚資料	8,453点

附属図書・芸術資料館は芸術関係図書資料等を重点的に収集・保存している図書館と、国の重要文化財に指定されている資料を含む「鎌倉芳太郎資料」や、台湾先住民の織布を集めた「岡村吉右衛門資料」、アジアの織物を集めた「柳悦孝コレクション」など貴重な資料が収蔵されている芸術資料館からなる施設です。

図書館には、開架閲覧室、ラーニング・commons、多目的室があり学生の自主的な学習の場として活用されています。図書館ではOPACシステムで蔵書検索が行えますので、効率よく図書が見つかります。また、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの利用が可能です。専門スタッフもおりますので、お気軽にお声かけください。

芸術資料館には、3つの展示室があり、館主催の企画展のほか、教員、学生等による企画展や個展などが活発に開催され、芸術表現の場として活用されています。



【大学収蔵コレクション】



「絹白地松皮菱繋輪扇菊牡丹文様紅型踊衣裳」
城間 栄喜 1963年 絹/紅型/着物



「赤絵鳥紋輪花皿」 作家不明 制作年不明 陶磁器



「東道盆」 金城 唯喜 制作年不明 漆/沈金



「ミセレーレ52番」 ジョルジュ・ルオー
1926年 版画

【主な企画展覧会】



令和元年度企画展

施設紹介

※()は施設のあるキャンパス名です。
※「芸術文化研究所」「附属図書・芸術資料館」は別頁(P43、P44)参照。



管理棟・一般教育棟(当蔵)

事務室のほか、一般教養を学ぶための教室があります。100名ほどが入れる大講義室やコンピュータ教室、LL教室も備えています。音楽棟とは芝生の中庭を挟んで向かい合っており、ベンチで休んでいる学生も見られます。



音楽棟(当蔵)

首里城と龍潭池のすぐそばに建ており、絶景を眺めることもできます。講義室、演習室、練習室、楽器庫のほか洋楽と琉球芸能の大合奏室と小合奏室がそれぞれ2つずつ、琉球舞踊の演習室が1つあります。



福利厚生棟(当蔵)

地下1階地上2階建てになっており、地下は学生食堂、1階はロビーが学生のフリースペースになっているほか、保健室、学生相談室、進路コーナー、国際交流室、留学生のための日本語教室の部屋となっています。2階は博士課程の研究室と学科室、図書室になっています。



奏楽堂(当蔵)

琉球芸能や洋楽、オペラの公演ができるホールのほか、講義室、合奏室、中合奏室、演習室、打楽器室、コントラバス室、録音室を兼ね備えたスタジオがあります。

授業で使用するほか、年間40回以上の公演に使用され、学生の練習場所としても活用されています。また、地域の主要なコンクールの主催会場としても使用されています。



体育館(当蔵)

板張りのアリーナとトレーニング用具のあるホールからなる体育館は、健康・運動科目の授業で使用のほか、バドミントン等のサークル活動や学生のレクリエーションの場としても活用されています。運動だけでなく、壁面の大鏡を利用して舞踊の練習の場として使っている学生も多いようです。



美術棟(当蔵)

絵画専攻と芸術学専攻の学生が学ぶ教室があります。入り口を入ると開放的な空間にガラスで囲まれた石膏像資料室があり、大きな石膏像に圧倒されます。実習室、講義室のほか版画工房、写真工房を備えています。



デザイン中央棟(崎山)

学年毎の実習室のほかプロダクト工房作業室、素材加工室、セラミック室、設計製図室、プリント工房、映像スタジオ、紙漉き工房、腐蝕室、製版室、木工房、金属工房等といった幅広くデザインを学ぶために必要な設備があります。



工芸棟(崎山)

染色実験室や染工房、織工房がある染分野、織分野のスペースと漆芸の実習室、塗部屋、陶芸の実習室、制作室焼成室、石膏室があります。学生は各自、自分に与えられた十分なスペースで個性的な作品を制作しています。



彫刻棟(崎山)

塑造室、石彫実習室、テラコッタ・铸造室、金属実習室、金属室、木彫室等を備えています。開放的な空間の中、それぞれの作業音が重なり合い、感性豊かな作品が生まれています。

卒業後の進路

就職への取り組み

造形芸術及び音楽・芸能の専門教育を行う本学では、21世紀を担う若き表現者を育成することを目指しております。一方、芸術大学ならではの独自性や創造性を企業、教育現場、博物館、美術館等さまざまな場所が求めており、本学で学んだ専門的スキルを余すことなく大いに活かす卒業生も少なくありません。

また、美術、工芸、音楽の教育職員免許状や博物館学芸員の資格も所定の単位を履修すれば取得できますので、多くの卒業生が学校教育の現場や博物館、美術館などでも活躍しています。

本学では、就職を希望する学生に応えるため、芸術大学としての進路相談や就職ガイダンスの実施、各種セミナーに取り組んでいます。

就職支援アドバイザーの取り組み

本学では学生の進路、就職に関する相談については、進路情報コーナーにて、就職支援アドバイザーが対応しています。沖縄県立芸術大学ならではの大きな環境と文化の中で育まれた、ものづくりに対する真摯な思いとこだわりや豊かでしなやかな感性と創造性が社会の中でもさらに紡いでいけるよう、一人ひとりが納得度の高いキャリア形成に繋がるよう、きめ細かなサポートをしています。

【具体的な取り組み】

- 進路・就職相談
 - ・履歴書やエントリーシートの書き方・添削
 - ・面接対策
 - ・自己分析・業界研究・企業研究
 - ・就職活動に関する疑問や社会に出る不安解消、望むキャリアの構築などキャリアカウンセリング全般
- 求人情報の提供
- 各種就職ガイダンスの実施
- 書籍の貸出
- 学内外で行われる企業合同説明会や行政の行う大学生向け就職支援事業など、学生にとって活用しがいのある情報の把握及び情報提供

上記の活動に加えて、キャリア教育教員や外部就職支援機関(ハローワークや県キャリアセンター等)とも連携し、各学生の就活状況の情報共有を図り、共同で支援を行うことにより、多角的な観点から学生支援を行っています。

小さい大学ならではの学生一人ひとりへのきめ細かなサポートを実施しております。

キャリア支援事業の取り組み

本学学生の専門性を活かせるクリエイティブな職種・業種を中心として就職先を開拓し、本学学生にとって興味深い企業とのマッチングを図るほか、就職意識を醸成するさまざまな取り組みを行うことにより就職内定率の向上を図っています。

【主な取り組み】(令和2年度)

- 学内合同企業説明会(出展企業10社程度)年1回
- 就活ワークショップ
- 個別企業説明会
- 各種相談会



学内合同企業説明会

卒業生の進路情報 (令和元年度)

	美術工芸学部	音楽学部	大学院
卒業生数	69	31	33
進学者	19	12	4
就職者(作家・音楽活動含む)	25	18	24
その他	25	1	5

※その他(就職活動、進学準備、留学準備、進路未報告を含む)

主な就職先

美術工芸学部／大学院	音楽学部／大学院
<p>絵画専攻</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 沖縄県立博物館・美術館(文化の杜) ■ 南風原文化センター ■ 足立美術館(学習支援) ■ 那覇造形美術学院 ■ (有)櫻井事務所 ■ (株)JCC ■ (株)楽樹タナストーン ■ フリーカメラマン ■ 沖縄大学非常勤講師 ■ 沖縄こどもの国ワンダーミュージアム ■ アカラギャラリー(ポクナン美術館) ■ (株)ムービータイム ■ 丸正印刷(株) ■ (株)ドラックストアモリ ■ 九州陶器 ■ 沖縄アミクス国際学園 ■ SOLA沖縄学園 ■ 秋田公立美術大学 ■ 金沢21世紀美術館 ■ NHK(日本放送協会)記者 ■ (株)TLO ■ (株)Summer Time Studio ■ 県内外の中学校・高等学校 ■ 沖縄県立芸術大学 ■ 他 <p>彫刻専攻</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ (公財)美術館国宝修理所 ■ (有)エム・ツウ・フォトグラフィー ■ (有)鬼亮 ■ ROAD WORKS ■ (株)クラフティズム ■ オリオンビール(株) ■ I.D.Aインターナショナルデザインアカデミー ■ (株)MIC ■ (株)パル ■ 中嶋プランニング ■ 金沢卯辰山工芸工房 ■ クリエイティブアイエムエス(株) ■ 自営業 ■ 山口大学 ■ 名古屋造形大学(非常勤) ■ 共立女子大学(非常勤) ■ 高等学校教員、小学校教員 ■ 沖縄県立芸術大学 ■ 他 <p>芸術学専攻</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 新潟市會津八一記念館 ■ 地中美術館 ■ 九州国立博物館 ■ 箱根彫刻の森美術館 ■ 浦添市美術館 ■ 那覇市歴史博物館 ■ 名護博物館 ■ 沖縄県立博物館・美術館 ■ 御殿場市役所 ■ ボスフル(現・イオン北海道(株)) ■ (株)伊豆急カメラ ■ (株)エスアールデザイン ■ (株)光文堂コミュニケーションズ ■ IBM ■ NHK ■ NECライベックス ■ 自営業 ■ 中学校教員、高等学校教員 ■ 沖縄県立芸術大学 ■ 他 <p>デザイン専攻</p> <ul style="list-style-type: none"> <グラフィック系> ■ (株)SCOOP ■ (株)博報堂プロダクツ ■ (株)エマエンタープライズ ■ (株)宣伝(以上広告代理店) ■ (株)フジタクリエイション(アパレルデザイン) ■ (株)光文堂コミュニケーションズ ■ 平山印刷(以上印刷) <映像系> ■ (株)PAワークス(アニメーション) ■ 日本アニメーション(株) ■ (株)モノクラム(WEB) ■ フォトアートたかの ■ サマースタジオ(ゲーム制作) ■ 沖縄テレビ ■ (株)沖縄テレビ開発(テレビ企画・制作) <プロダクト系> ■ (株)GKデザイングループ(プロダクトデザイン) ■ 一般社団法人ものづくりネットワーク沖縄(製造) ■ (株)沖縄三越環境デザイン(家具) ■ (株)富士ファニチア(家具) <建築・スペース系> ■ (株)国建 ■ デザインスタジオ琉球楽団 ■ (株)アレックス(以上建築設計) ■ (有)スタブランニング ■ (株)船場(以上店舗デザイン) ■ ナグモデザイン事務所(ランドスケープ) <教育> ■ 兵庫県立立野北高校 ■ 特別支援学級臨時教員 ■ 浦添市児童センター ■ 県内外の小学校・中学校・高等学校 ■ 名古屋芸術大学(非常勤) ■ 沖縄県立芸術大学 ■ 他 <p>工芸専攻</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 紅型工房 ■ 織物工房 ■ 大瀬工房(陶芸工房) ■ 常秀工房(陶芸工房) ■ 国場陶芸(陶芸工房) ■ 工房 壱(陶芸工房) ■ 育陶園(陶芸工房) ■ 糸満工芸(陶芸工房) ■ 北窯(陶芸工房) ■ Aki-art(陶芸工房) ■ 陶芸作家(自営) ■ VIVACE(陶芸インストラクター) ■ OVER LAND CLUB(陶芸インストラクター) ■ 体験王国ひら咲むら(陶芸インストラクター) ■ アーバン(陶芸インストラクター) ■ 飛騨産業(株) ■ 凸版印刷(株) ■ 任天堂(株) ■ 中外国島(株) ■ 三星染色(株) ■ (株)電通沖縄 ■ (株)日比谷花壇 ■ カメラマンアシスタント ■ アパレルメーカー ■ 会社経営(芸能プロダクション) ■ ヨーガンレール ■ 那覇造形美術学院 ■ JICA ■ (株)INAX ■ 白山陶器(株) ■ 琉球朝日放送(美術スタッフ) ■ リウボウインダストリー ■ 洋菓子無花果(パティシエ) ■ セルフサポートセンターぴゅあ ■ アッシュ・ペー・フランス(株) ■ (株)ゆう工房 ■ 雅織工房 ■ (株)MCS ■ 窪田織物(株) ■ (有)島津漆器彩色工房 ■ 久留米織織元下川織物 ■ 書道教室 ■ 沖縄県工芸振興センター ■ 南風原文化センター ■ 小学校教員 ■ 中学校教員 ■ 高等学校教員 ■ 有田窯業大学校教員 ■ 常滑市陶芸研究所教員 ■ 沖縄県立芸術大学 ■ 他 	<p>声楽専攻(平成28年度より音楽表現専攻へ改編)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ヴァイマル歌劇場専属歌手 ■ 新国立劇場合唱団員 ■ 鹿児島国際大学講師 ■ 琉球朝日放送(株) ■ SDA東西学園 ■ 音楽教室 ■ 県内の小学校・中学校・高等学校教員 ■ 沖縄県立芸術大学(教員・助手・非常勤講師・職員) ■ 他 <p>器楽専攻(平成28年度より音楽表現専攻へ改編)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ レックリングハウゼン州立シンフォニーオーケストラ ■ マインツ市祝典オーケストラ ■ 東京交響楽団 ■ 山形交響楽団 ■ 大阪交響楽団 ■ 広島交響楽団 ■ 東京吹奏楽団 ■ 神奈川県警察音楽隊 ■ 陸上自衛隊第15音楽隊 ■ 航空自衛隊 ■ ヤマハ(株) ■ ヤマハ音楽振興会 ■ ヤマハ音楽教室 ■ カワイ音楽教室 ■ (株)アーツポート企画 ■ 三越 ■ 三井住友銀行 ■ 熊本銀行 ■ KAJIMOTO ■ 日本食研 ■ 郵便局 ■ 市役所 ■ 小川楽器 ■ ピアノ講師 ■ ミュージックプラザ ■ 十勝毎日新聞 ■ (株)ヤマダヤ ■ 合同会社PVHジャパン ■ とさでん交通(株) ■ (公財)名古屋市文化振興事業団 ■ 音楽教室(自営) ■ フリーランス演奏家 ■ デトモルト音楽大学非常勤講師 ■ 洗足学園音楽大学非常勤講師 ■ 県立特別支援学校教員 ■ 県内外の小学校・中学校・高等学校教員 ■ 沖縄県立芸術大学教職員・非常勤講師・嘱託員 ■ 他 <p>音楽学専攻(平成28年度より音楽文化専攻へ改編)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 国立劇場おきなわ ■ 那覇バス(株) ■ (株)花木水木コーポレーション ■ 琉球朝日放送(株) ■ 琉球放送(株) ■ 伊豆急行(株) ■ ザ・ブセナテラス ■ (株)沖縄富士通システムエンジニアリング ■ ルネッサンスリゾートオキナワ ■ (株)Pix ■ (株)アカネクリエイション ■ 那覇空港ビルディング(株) ■ 国際日本文化研究センター ■ 沖縄県南部医療センター・看護師 ■ 介護士 ■ 郵便局職員 ■ 吉本興業(株) ■ 柳都振興(株) ■ 音楽活動(自営) ■ 琉球大学非常勤講師 ■ 県内役所・役場(職員・臨時) ■ 沖縄県立看護学校教師 ■ 県内の小学校・中学校・高等学校(教員・臨時・非常勤講師・事務職員) ■ 沖縄県庁職員・臨時的任用職員 ■ 豊見城市社会福祉協議会 ■ 沖縄県立芸術大学教職員・非常勤講師・嘱託員 ■ 他 <p>琉球芸能専攻</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ (公財)国立劇場おきなわ(芸術監督・嘱託員) ■ NPO法人団体 ■ 沖縄市民小劇場あしびなー ■ 沖縄タイムス社 ■ 組踊・琉球舞踊小道具製作工房 ■ 三線製作・店舗経営 ■ 三線漆塗・店舗経営 ■ 飲食店経営 ■ (一財)沖縄美ら島財団 ■ (株)沖縄富士通システムエンジニアリング ■ ルネッサンスリゾートオキナワ ■ (株)Pix ■ (株)アカネクリエイション ■ 那覇空港ビルディング(株) ■ 国際日本文化研究センター ■ 沖縄県南部医療センター・看護師 ■ 介護士 ■ 郵便局職員 ■ 吉本興業(株) ■ 柳都振興(株) ■ 音楽活動(自営) ■ 琉球大学非常勤講師 ■ 県内役所・役場(職員・臨時) ■ 沖縄県立看護学校教師 ■ 県内の小学校・中学校・高等学校(教員・臨時・非常勤講師・事務職員) ■ 沖縄県庁職員・臨時的任用職員 ■ 豊見城市社会福祉協議会 ■ 沖縄県立芸術大学教職員・非常勤講師・嘱託員 ■ 他



進路情報センター

活躍する卒業生



泉 佳那
(いずみ かな)



(沖縄県出身)
2017年 沖縄県立芸術大学美術工芸学部工芸専攻染色分野 卒業
2019年 沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科生活造形専攻工芸専修 修了
2019年 沖縄県立芸術大学工芸専攻染色分野 非常勤講師

高校で染織を学び、紅型に興味を持ち、本学の美術工芸学部工芸専攻へ進学しました。

学部を卒業後、より紅型についての見識を広げたいと思い、本学大学院へ進学しました。そして現在、非常勤講師として本学に務めさせていただいている傍ら、作家活動、そして織物をしている友人と共に「工芸が気軽に手軽に使える」製品開発に取り組んでいます。

在学中は同期や先輩方、そして先生方と多くの言葉を交わすことで、作品制作について技術面のみならず、自身の現しきれない表現を、より明確化する引き出しを頂いたように思います。そしてそれらの引き出しは卒業後、大きな糧となっています。また、物事の捉え方や、表現し伝える難しさ、制作に対する姿勢のあり方といった在学中の学びは、個人で活動するにあたっての大きな基盤となっています。

卒業して未だ日は浅く、学ぶことは多くありますが、在学中に学んだ経験を糧に、活動していきたいと思っています。



牧内 奏
(まきうち かな)



(千葉県出身)
十勝毎日新聞社事業局事業部
2017年 沖縄県立芸術大学音楽学部音楽学科器楽専攻打楽コース 卒業
2017年 十勝毎日新聞社 入社

地方の新聞社に入社し、現在はイベントを企画運営する部署にいます。民謡や吹奏楽部の演奏会など主に文化事業を担当し、2020年は写真家・蜷川実花さんの展覧会運営に携わりました。

芸術大学は各専攻のプロフェッショナルを育てる学校ですが、私がした選択は、プロと世間の人々が出会う「きっかけ」を創出する仕事でした。心に残るような演奏をする講師陣、友人に囲まれた環境だったからこそ生まれた進路だと思っています。

昨今の情勢で多くの行事が中止となりました。その中で対策を講じて開いた展覧会では、作品を見て「元気をもらえた」という声が多く届き、改めて文化芸術が日常に必要なものだと感じています。

私が芸術大学を志すきっかけをもらったように、これからは一人でも多くの人の心を動かすような事業ができるよう、日々邁進してまいります。



伊禮 拓郎
(いれい たくろう)



(沖縄県出身)
沖縄県立博物館・美術館 博物館班 学芸員(美術工芸担当)
2019年 大学院比較芸術学専修 修了
2019年 「沖縄県立芸術大学美術工芸学部・大学院造形芸術研究科 第30回卒業・修了作品展」北中城村長賞受賞
2019年 研究発表:「琉球製中央卓について」新・琉球漆芸会議2019(浦添市美術館)
2019年 沖縄県立博物館・美術館に採用
2020年 研究発表:「貝塚奉行所製漆器について」沖縄県立博物館・美術館学芸員講座(沖縄県立博物館・美術館)等

他大学を卒業し、本学大学院に進学しました。指導教員の森達也教授からは、東アジア世界の美術工芸史について広く指導いただき、私自身の研究テーマである琉球漆工史が、より世界とつながっていることを学ぶことができました。また、工芸専攻漆芸分野で実技を指導いただく機会を得られ、自身の研究をより深めることもできました。同じ学科内においても異なる研究分野を選んだ先輩・後輩から思わぬ指摘をもらうことができたり、実技の学生とは技術に裏付けられた深い議論ができたり、非常勤講師として専門の先生にお越しいただけたりと非常に充実した2年間でした。これらは、理論研究と実技の両方ができる芸術専門の大学ならではの学びであったと思います。実技だけが芸術大学の学びではなく、研究をするにも非常に素晴らしい環境であると思います。



小川 恵祐
(おがわ けいすけ)



(山形県出身)
舞台芸術制作者
南城市文化センターシュガーホール 企画制作、ウザシチラボ、シェアハウスおもろ荘 共同代表、ハートFMなんじょうラジオパーソナリティー
2015年 静岡大学教育学部 卒業
2017年 沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科音楽学専攻(領域:民族音楽学)修了
2017年 現職

院生時代は自分の無知さをありありと思い知らされながらも、失敗も挑戦もすべて受け入れてくれた教授陣のおかげで修士論文を書き上げることができました。一方で、沖縄の伝統芸能の豊かさに溺れ、地域に「祭り」あれば学友と沖縄中を東奔西走し、音楽芸能の現場へひたすらに向きました。それらの経験が、琉球芸能と向き合う「ウザシチラボ」の活動や、アーティスト支援専門のシェアハウス経営等を力付けています。換言すれば、生きづらい社会でどのようなキャリアを築いていくべきか、それを裏付けてくれるのが沖縄での経験や学びでした。当時の講義がきっかけで現在勤めている公共ホールの仕事でも同様に支えられています。まだまだ未熟ですが、生きづらさを抱える人をささやかに後押しできるような舞台芸術制作の仕事を務めていけたらと思っています。

国際交流

海外姉妹校との交換留学

芸術・学術交流協定締結大学

国際的視野に立った芸術家・研究者を育成するために、海外の大学と芸術・学術交流協定を結び、学部・大学院の優秀な学生を対象とした単位互換も可能な交換留学を推進しています。協定大学とは、展覧会や演奏会活動等を含めた教員間の研究交流にも積極的に取り組んでいます。

姉妹校(7カ国・地域11校)

- 福建師範大学(中国)、中国音楽学院(中国)
- ミュンヘン造形芸術大学(ドイツ)
- プレーメン国立芸術大学(ドイツ)
- C.モンテヴェルディ音楽院(イタリア)
- ミラノ・ビッコカ大学(イタリア)
- チェンマイ大学美術学部(タイ)
- 国立台北芸術大学(台湾)、国立台湾芸術大学(台湾)
- インドネシア国立芸術大学デンパサール校(インドネシア)
- ハワイ大学マノア校(アメリカ)

交換留学

令和2年度の姉妹校留学実績としては、イタリアから2名、台湾から1名の留学生を受け入れました。新型コロナウイルス蔓延の影響で、例年よりも少ない実績にとどまりました。姉妹校への留学は、協定校への交換留学生ということで、通常の私費留学などに比べて、事前に多くの情報も入手でき、サポート体制が充実しています。また、留学先で取得した単位を本学の単位として認定できる可能性もあります。留学中は休学ではなく、本学に在籍中とみなされ、その期間は卒業までに必要な在学期間に参入されます。つまり、留学しても4年間で卒業することが可能です。在学中に、積極的に海外からの留学生や留学した先輩と交流を深め、より多くの学生が姉妹校留学へチャレンジしてくれることを期待しています。



姉妹校からの留学生の学長表敬



県費・姉妹校留学授業

大学間国際交流事業の成果

インドネシア国立芸術大学との学術交流

本学とインドネシア国立芸術大学デンパサール校は、平成24年(2012)に学術交流協定を締結しました。これまで、デンパサール校から多くの教員・学生が本学を訪れており、パリの伝統楽器であるガムラン演奏会や、インドネシア伝統工芸展示会などが開催されています。

令和元年(2019)9月には本学とイベント趣旨に賛同頂いたデンパサール校を含む6大学の教員・学生等による「ドローイングコミュニケーション2019」が開催され、作品展示・ワークショップ・ディスカッション等が行われました。また、デンパサール校副学長と本学教員・学生によるバリガムラン・舞踊演奏会も行われ、全学的な交流が進められました。

国立台湾芸術大学との学術交流

本学と国立台湾芸術大学は平成8年(1996)に美術工芸学部から交流が始まり、平成28年(2016)には正式な学術交流協定を締結しました。

平成29・30年度には「台湾・沖縄県立芸術大学交流展」が開催され、両学教員が制作した美術・デザイン・工芸分野の作品展示等が行われました。また、令和元年(2019)5月には、本学で「国立台湾芸術大学中国音楽学科 絲竹楽団演奏会」が開催され、同大学から訪れた教員・学生と本学琉球芸能専攻学生との演奏会・ワークショップが行われました。

今後も、沖縄の地理的特徴を生かした国際交流が期待されます。



国立台湾芸術大学との交流(絲竹楽団 演奏会)

ハワイ大学マノア校との学術交流

本学とハワイ大学マノア校は平成28年(2016)に学術交流協定を締結しました。協定は教員・学生の交流、共同研究プログラム等での協力推進を目的としており、同年には協定締結を記念してハワイでの公演会・展示会等が実施され、本学で所蔵する着物類、陶磁器、工芸作品、それらの写真・映像資料が展示されたほか、琉球古典芸能や民俗芸能創作舞踊などを披露し、その魅力を伝えました。

現在は、協定締結を契機としてハワイでのハワイ語復興をモデルとした本学でのしまくとぅば教育への活用について共同研究が進められています。

学費・奨学金

【入学料・授業料等】

※令和3年4月1日現在

区分	授業料聴講料	入学料	
		県内居住者	その他の者
学部学生	年額 535,800円	282,000円	512,000円
大学院生	年額 535,800円	282,000円	512,000円
研究生	月額 29,700円	84,600円	153,600円

備考/県内移住者とは、次の各号のいずれかに該当する者をいう。

(1)入学の日の1年以前から引き続き県内に住所を有する者。

(2)入学の日の1年以前から引き続き県内に住所を有する配偶者または1親等の親族のある者。

※在学中に授業料改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。

※高等教育の修学支援新制度の対象者のほか、法人の規定に基づいて入学料、授業料が減免された者は、その額が適用されます。

※大学院に入学する者のうち、社会人等で履修期間を延長する長期履修制度の適用が認められた者は、その期間に応じた授業料が適用されます。

■授業以外に必要な経費

1.美術工芸学部

実習経費(4年間分)は右表のとおりです。

入学時に一括して納入し、過不足が生じた場合は入学後調整することになります。

※卒業経費含む

2.音楽学部

○琉球芸能専攻 琉球古典音楽コース 約70,000円(黒朝・ハチマチ・長着稽古着代)

○琉球芸能専攻 琉球舞踊組踊コース 約14,000円(長着稽古着代)

3.学外研究費

美術工芸学部 | 各専攻とも2年次あるいは3年次に予定している必修科目の経費として、180,000円(芸術学専攻は160,000円)を入学時に納入し、過不足が生じた場合は、入学後調整することになります。

音楽学部 | 琉球芸能専攻では、3・4年次に予定している選択科目の経費として、実施年次に約150,000円が必要となります。

音楽文化専攻沖縄文化コースでは、3年次に行われる必修科目の経費として、県外施設で研修する場合は、実施年次に80,000円～120,000円程度が必要となります。

専攻	実習経費	学外研究費	
絵画専攻	日本画	300,000円	180,000円
	油画	320,000円	180,000円
彫刻専攻		330,000円	180,000円
芸術学専攻		70,000円	160,000円
デザイン専攻		170,000円	180,000円
工芸専攻		320,000円	180,000円

【奨学金】

奨学金は、学業成績優秀な学生であって経済的理由により修学に困難がある者に対し、学資として貸与等がなされるものです。

奨学金には、(独)日本学生支援機構奨学金、(公財)沖縄県立芸術大学芸術振興財団奨学金、(公財)沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金、地方公共団体等の奨学金、その他民間団体による奨学金等があります。

(独)日本学生支援機構奨学金(貸与) [http://www.jasso.go.jp/]

多くの学生が利用している奨学金です。

本学では、貸与希望者向け説明会を4月に開催しています。

【学部】

奨学金の種類	貸与の方法	貸与金額	
		自宅通学	自宅外通学
第一種奨学金 (利息の無いタイプ)	月額	45,000円	51,000円
		20,000円 30,000円 40,000円	
		20,000円～120,000円(1万円単位)から選択	
第二種奨学金 (利息が付くタイプ)	一時金	100,000円～500,000円(10万円単位)から選択	

【大学院】

奨学金の種類	貸与の方法	貸与金額	
		修士課程	博士課程
第一種奨学金 (利息の無いタイプ)	月額	50,000円 88,000円	80,000円 122,000円
		50,000円 130,000円	80,000円 150,000円
第二種奨学金 (利息が付くタイプ)	一時金	100,000円～500,000円(10万円単位)から選択	

(独)日本学生支援機構奨学金(給付) [http://www.jasso.go.jp]

高等教育無償化制度の対象者に対し、奨学金を給付します。【学部生のみ】

(公財)沖縄県立芸術大学芸術振興財団奨学金(給付)

沖縄県立芸術大学に在学する学生(姉妹校派遣及び受入留学生を含む)で、人物、学業ともに優れ、学資の支弁が困難と認められる者(他から奨学金の貸与又は給付を受ける者を除く。但し留学生はこの限りではない。)

給付額: 自宅通学者 月額 25,000円

自宅外通学者 月額 30,000円

(公財)沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金(貸与)

沖縄県に本籍または住所を有する者の子弟で、人物、学業ともに優れ、かつ健康であり学資の支弁が困難と認められる者。他から奨学金の貸与を受けていない者。

貸与額: 学部生 月額 40,000円

修士課程 月額 70,000円

博士課程 月額 80,000円

その他、地方公共団体、民間団体による奨学金

各市町村育英会等からの募集については、直接希望者が出願するのがほとんどです。また、それぞれ応募期間、申込先、応募資格等が異なります。各民間団体からの募集については、その都度、応募期間等について掲示板にてお知らせ致します。

学生生活サポート

■保健室

保健室では、心身ともに健康で充実した大学生活が送れるようサポートしています。

毎年5月に定期健康診断を実施するほか、ケガや病気の応急処置はもちろんのこと、健康上の不安やこころの悩みなどの相談窓口にもなっています。

また、体調の維持・管理のための食事(栄養)相談や、身長、体重、血圧などの測定ができます。

もし、気分が悪いときはベッドで休養もできますので、気軽にご利用ください。

■学生相談室

大学生という新しい環境に馴染むには不安と緊張が伴います。学生相談室では、大学生活を送る上で抱える様々な悩みや迷いについて、専門のカウンセラーが話をうかがいます。

劣等感や人見知りなど、こころの問題をはじめ、学業、人間関係、自身の成長、不安やストレスによる心身の症状、障害による困り感などがあれば、一人で抱え込まずに気軽にご相談ください。



■ハラスメント相談

大学生活において人間関係のコミュニケーションや信頼関係をより良いものとするため、学生・教職員のハラスメントに関する学内相談員を設置しています。随時相談を受け付けており、プライバシーを重視し、面談を行っています。

■公聴について

学長のメールアドレスを公開しているほか、学内(当蔵、金城、崎山キャンパス)の事務局窓口前にご意見箱を設置し、随時意見を受け付けております。(匿名可)

意見への対応については、学内で審議し、結果を掲示により公表しております。

また、毎週火曜日に学長オフィスアワーを設け、学長と学生の交流による学内の環境改善を図っております。

■国際交流室

国際交流室では、受入留学生の支援はもとより、本学から姉妹校へ派遣する学生の様々な相談に応じます。例えば、姉妹校で学べる授業の内容や具体的な志願の方法(申請書、志望動機、研究計画の書き方やそれらの文書の翻訳)を支援します。また、パスポート、学生ビザの取得や現地での住居の検索をサポートします。国際交流室には、先輩方の体験談も含め現地での生活費や日常の過ごし方、困ったこと良かったことなど多様な資料が蓄積されているので、様々な海外情報を提供できます。さらに、ヨーロッパ、中南米やアジアから留学生を受け入れているので彼らと本学学生の交流を促進する役割を担っています。



■学生食堂

当蔵キャンパス福利厚生棟地下にある学生食堂は、日替わり定食、沖縄そばといった定番メニューを手頃な価格で提供しています。授業や研究に忙しい学生たちの食生活を支えているほか、一般の方にも開放されており、誰でも気軽に利用できる食堂となっています。



入試情報

詳しくは、ホームページ等でご確認ください。
 ホームページアドレス <http://www.okigei.ac.jp/examination/examination-index.html>



- 1 一般選抜【全学部全専攻、大学院実施】**
 実技試験と学力試験及び調査書(大学院は調査書は無し)等により総合的に判断し、選抜を行っております。
- 2 学校推薦型選抜【彫刻専攻を除く全学部全専攻実施】**
 大学入学共通テストを免除し、出身学校長の推薦書等の出願書類及び志望学科専攻による選抜試験の成績結果を総合的に判断し、選抜を行っております。
- 3 社会人選抜【音楽学部音楽学科琉球芸能専攻/大学院比較芸術学専攻のみ実施】**
 大学入学共通テストを免除し、志願理由書等の内容、小論文、実技及び面接等により総合的に判断します。

2022年度 入試日程

■一般選抜・学校推薦型選抜・私費外国人留学生選抜・社会人選抜

選抜方法	学部(専攻)	出願期間	選抜期日
一般選抜(学部)	前期日程 美術工芸、音楽	2022年1月24日(月)～2月2日(水)	2022年2月25日(金)～2月27日(日)
	後期日程 美術工芸(絵画・彫刻・工芸)	2022年1月24日(月)～2月2日(水)	2022年3月12日(土)～3月14日(月)
学校推薦型選抜(学部)	美術工芸(絵画・芸術学・デザイン・工芸)	2021年11月1日(月)～11月8日(月)	2021年11月20日(土)～11月21日(日)
	音楽	2021年11月1日(月)～11月8日(月)	2021年11月20日(土)～11月21日(日)
私費外国人留学生選抜(学部)	美術工芸、音楽	2022年1月24日(月)～2月2日(水)	2022年2月25日(金)～2月27日(日)
社会人選抜(学部)	音楽(琉球芸能)	2022年1月24日(月)～2月2日(水)	2022年2月25日(金)～2月27日(日)

■大学院入試

研究科	専攻	出願期間	選抜期日
造形芸術研究科(修士課程)	9月試験 比較芸術学(一次募集)	2021年8月2日(月)～8月9日(月)	2021年9月4日(土)～9月5日(日)
	2月試験 生活造形、環境造形、比較芸術学(二次募集)	2022年1月6日(木)～1月14日(金)	2022年2月5日(土)～2月6日(日)
音楽芸術研究科(修士課程)	舞台芸術、演奏芸術、音楽学	2021年9月17日(金)～9月24日(金)	2021年10月23日(土)～10月24日(日)
芸術文化学研究科(後期博士課程)	芸術文化学	2022年1月17日(月)～1月21日(金)	2022年2月28日(月)～3月1日(火)

Open Campus
 オープンキャンパス2021
 詳細はホームページでご案内します。

- 6/13 日 美術工芸学部・音楽学部
- 8/1 日 美術工芸学部・音楽学部
- 10/10 日 音楽学部
- 2022 3/20 日 美術工芸学部

本学への問合せ・資料請求方法

ホームページアドレス <http://www.okigei.ac.jp/examination/ex-order.html>

入学試験情報については、本学のホームページで確認してください。



※発送開始時期と送料については、変動することがあります。

資料名	発送開始時期	資料請求先
大学案内	4月下旬	①インターネット ②テレメール

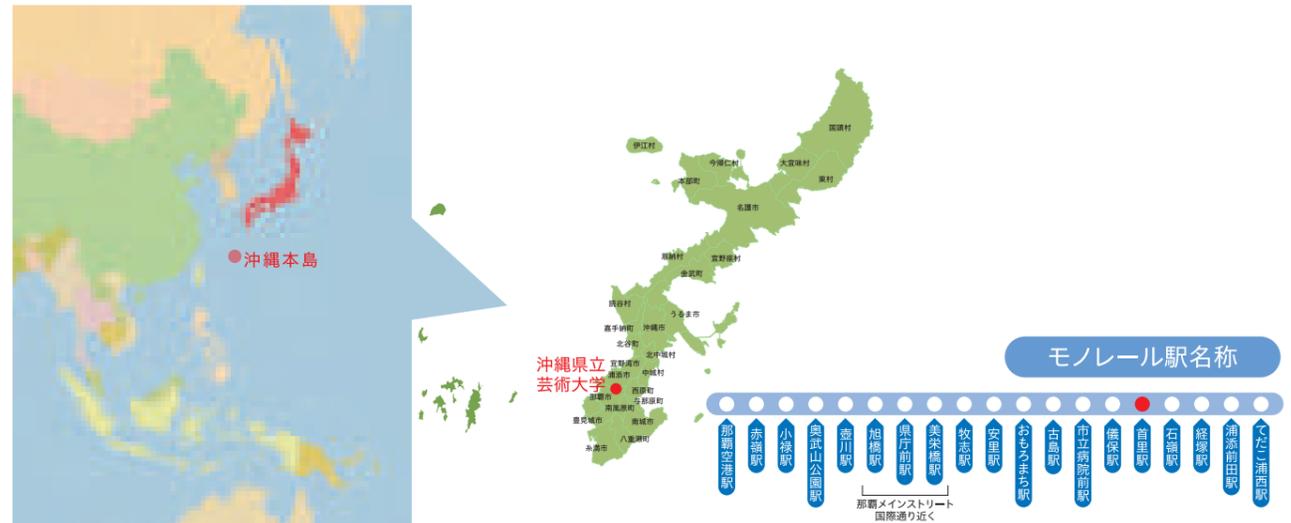
請求先 〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1丁目4番地 沖縄県立芸術大学教務学生課 電話(098)882-5080

資料の請求方法

- ①インターネット:テレメールwebアドレスを用いて請求してください。
 ○テレメールwebアドレス/<http://telemail.jp/>
- ②テレメール:24時間コンピュータ音声による受付を行っています。
 本学の資料請求番号を用いて請求してください。
 ○テレメール番号:IP電話050-8601-0101

アクセスマップ

沖縄県立芸術大学の位置 Location of the Okinawa Prefectural University of Arts



沖縄県立芸術大学周辺略図

モノレール駅名称

- 那覇空港駅
- 赤嶺駅
- 小樽駅
- 泉武山公園駅
- 遊川駅
- 旭橋駅
- 県庁前駅
- 美栄橋駅
- 牧志駅
- 安里駅
- おもろまち駅
- 古島駅
- 市立病院前駅
- 徳保駅
- 首里駅
- 石嶺駅
- 銘塚駅
- 浦添前田駅
- たご浦西駅

【交通案内】(首里金城キャンパス)

- 自動車利用の場合
 那覇空港(那覇)より9.8km、約45分。
 沖縄自動車道・那覇I.C.から約10分。
- モノレール利用の場合
 那覇空港駅より首里駅まで約35分。
 首里駅より徒歩約20分。
 首里駅よりタクシー利用で約8分。
- バス利用の場合
 「芸大第3キャンパス前」バス停下車、徒歩1分。
 沖縄バス系統番号 ⑦⑧首里城下町線

【交通案内】首里当蔵キャンパス

- 自動車利用の場合
 那覇空港(那覇)より9.8km、約45分。
 沖縄自動車道・那覇I.C.から約10分。
- モノレール利用の場合
 那覇空港駅より首里駅まで約35分。首里駅より徒歩約10分。
- バス利用の場合
 「当蔵」バス停下車、徒歩1分。
 那覇バス系統番号 ①首里牧志線 ⑦石嶺(開南)線
 46糸満西原線 ⑨牧志開南循環線
 沖縄バス系統番号 ⑦⑧首里城下町線

【交通案内】首里崎山キャンパス

- 自動車利用の場合
 那覇空港(那覇)より9.8km、約45分。
 沖縄自動車道・那覇I.C.から約3分。
- モノレール利用の場合
 那覇空港駅より首里駅まで約35分。首里駅よりバス乗換・タクシー利用で約6分。
- バス利用の場合
 「芸大崎山キャンパス前」バス停下車、徒歩1分。
 那覇バス系統番号 ⑤寒川線
 「那覇インター前」バス停下車、徒歩5分。
 那覇バス系統番号 ①首里牧志線 ⑥新川首里線 ④牧志開南循環線
 沖縄バス系統番号 ⑧首里駅線 ⑨屋敷原・高速線
 東陽バス系統番号 ⑤城間線(南風原経由) ⑥城間線(一日橋経由)
 琉球バス系統番号 ⑩具志川空港線 ⑪石川空港線
 共同運行 ⑩⑪⑫高速バス